

城取博幸の
山口県萩のスーパーマーケット見聞録

N0138

2020年12月

城取フードサービス研究所

城取 博幸

下関から萩へ

7時42分発 徳山行き



厚狭(あさ)乗り換え



普通長門行き 8時34分発



長門市乗り換え 9時39分 東萩行き



荒れる日本海



萩に近づく



萩駅



東萩到着 10時11分

2時間半くらいで東萩に到着



東萩駅 駅前にはコンビニもない



観光案内所で情報を得る



宿泊した駅前のホテル 3階のコインロッカーに荷物を預ける
宿泊者は後でお金を返してくれる



駅前の 100 円バス

30 分ごとに運航



2 系統ありどれだけ乗っても 100 円 1 日券 500 円、2 日券 700 円

2 日券を購入したが 100 円を払って乗った方が安かった



ブルーの線 東周りの「松陰先生」に乗車



道の駅と生鮮市場が一緒になったような施設



萩しーまーと

地方卸売市場に併設

観光施設としても使われ市場が活性化している

それでも今は観光客が少ない



中に入ると



青果売場



山口のブランド品「はなっこりー」

中国野菜のサイシンとブロッコリーを掛け合わせた野菜



ブロッコリー158 円とカリフラワー168 円



手づくりこんにやく



肉売場



山口県産 鶏肉



活魚の水槽



海鮮にぎり寿司 10貫 1200円



パック済み魚



あなごの開き 洗いもずく



地元産の魚



甘鯛、イサキ、アジ



のどぐろ開き 400 円

サイズが小さい

のどぐろはサイズによって価格が違う



練物の揚げ物



せんべい天ぷら



弁当は 500 円以上



揚げ物



市場内の食堂「きはぎ」



メニュー



煮魚定食で、魚は「のどぐろ(しろむつ)」を指定
萩では「のどぐろ」と「甘ダイ」は食べておかないと



煮魚定食



ハマチ、アジ、タイのお刺身

鮮度は抜群でおいしい



のどぐろ(赤ムツ)の煮つけ

サイズが小さいためあまり脂が乗っていないが身はおいしい



鯛の見分け方

写真はここのものではないが、偶然 2 尾並んでいたから分かりやすい

あくまでも一般的な話ですが

まず鮮度はお尻を見れば分かる

下の方が鮮度がいい

頭の形の違い

個体差もあるが、一般的に上が天然、下が養殖

魚相もこれだけの違いがある



緑地に捨てられていた「ハヤトウリ(センナリウリ)」
生では食べられないので茹でてサラダ、和え物に、漬物に



次回は長州藩の学校「明倫学舎」と「城下町」をレポートします

萩「明倫館」

2020-12-21 17:00:31

今日は「冬至」 かぼちゃを食べて、ゆず湯につかる



旧萩藩校 明倫館

1719年、5代藩主「毛利吉元」が毛利家臣の子弟教育のために堀内に開いた藩校



右隣の「有備館」



有備館

槍(やり)、剣道場として藩士の練武「坂本龍馬」もここで試合をしたと言われている



坂本龍馬と萩

坂本龍馬は土佐勤王党武市瑞山の手紙を久坂玄瑞(くさかげんずい)に届けるため萩を訪れた
龍馬は萩に9日間滞在する その3月24日、龍馬は突然土佐藩を脱藩



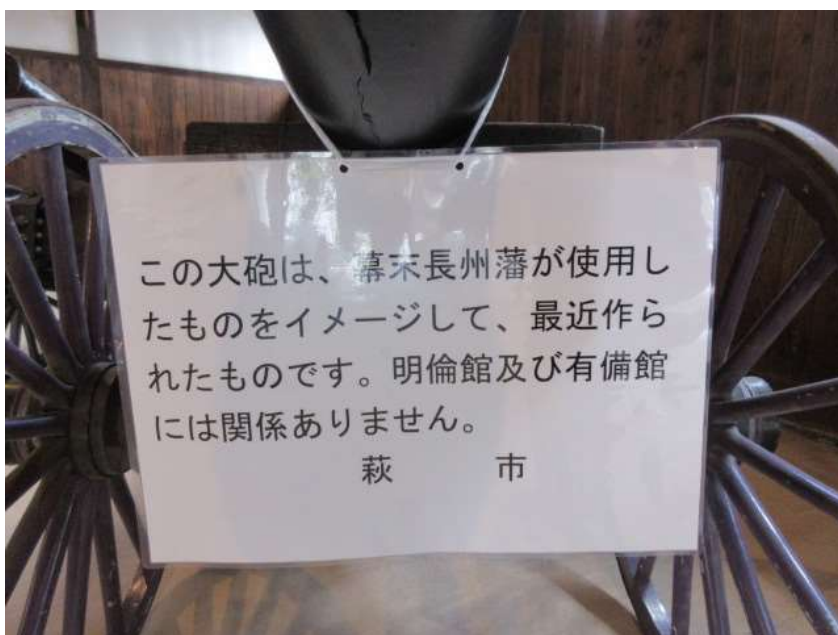
内部



長州の大砲



幕末長州藩が使用した大砲(レプリカ)



明倫館

～萩の観光はここから～

1719年藩校を開いた約130年後の1849年、現在の位置に移転
約5万㎡もの敷地内に学舎や武芸修練場、練兵場などがあり
吉田松陰もここで一時期教鞭をとった



ソテツ



ここにも夏みかん



館内



左右対称の廊下



幕末と明治維新

日本近海におけるおもな欧米船の出没状況



萩藩城下町 川に囲まれている立地



1. 明治日本の産業革命



マンガで紹介されている 2. 19世紀の世界と日本 イギリスで始まった産業革命が世界を変えた



3. 工業化 試行錯誤の舞台 黒船来襲に備え、海防の強化を計画



4. 製鉄の近代化への挑戦 鉄製の強い大砲をつくるため、反射炉を建設



5. 造船の近代化への挑戦 伊豆から船大工を招き、造船所を建設



6. 工学教育の先駆者「吉田松陰」



7. 明治の工業化と「長州ファイブ」



長州ファイブ



長州ファイブの人生



萩の工業化遺跡



大砲の展示場



15cm青銅製臼砲



口はギザギザになっている



1870年、大坂砲兵工廟で和え遺贈された稀少な現存大砲



大坂砲兵工廟で製造された稀少な現存大砲

15センチ青銅製臼砲

明治政府は軍事技術の近代化を図り、明治3年(1870)に大坂砲兵工廟を完成させた。建設には、明治2年に京都で暗殺された、長州出身の大村益次郎が尽力した。大坂砲兵工廟で製造されたものの現存例は、靖国神社の銅製臼砲及び大村益次郎銅像があるが、この臼砲は大砲としては稀少な現存例である。砲身長935mm、口径149mm、重量約1.7トン、最大射程4,390m。

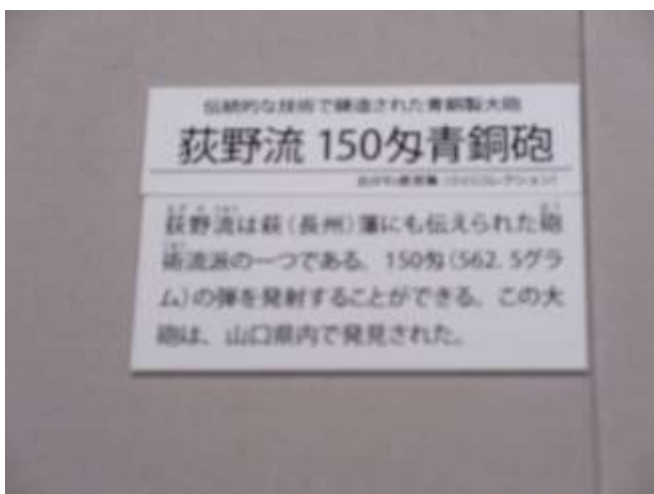
弾丸は円球から



萩野流150匁(もんめ)青銅砲



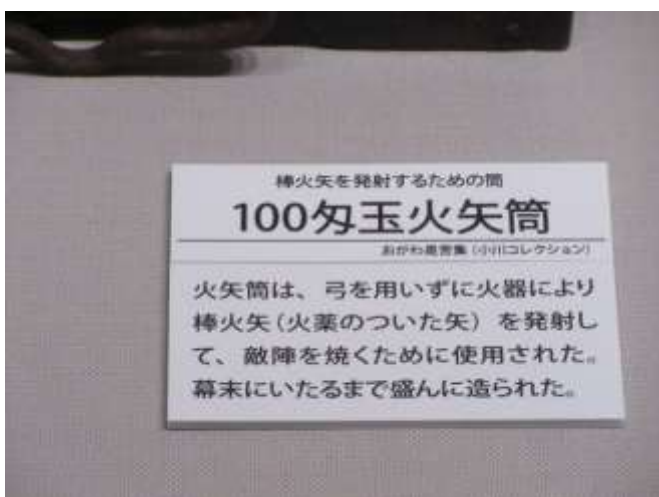
山口県内で発見された



100 匁玉火矢筒



火薬のついた矢を発射して、敵陣を焼くために使用された



欧米から輸入されたライフル



イギリス製スナイドル銃、アメリカ製スペンサー銃など



長州の鉄砲



長州の弾丸入れ



戊辰戦争図



軍装



戊辰戦争で最も激戦となった会津戦争

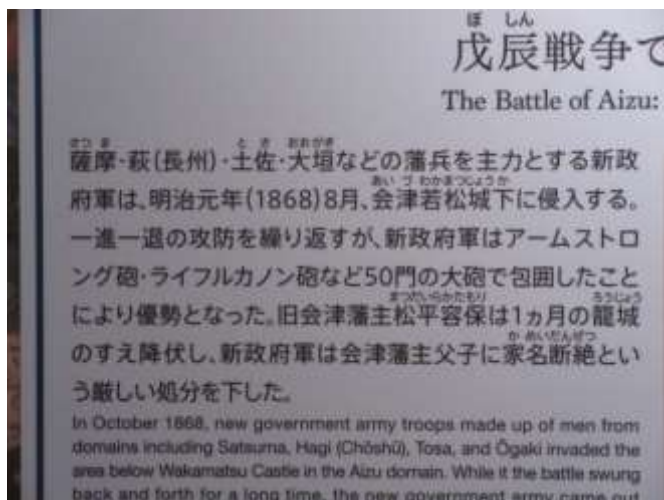


薩摩、萩(長州)、土佐、大垣などの藩兵を主力とする新政府軍は、1868年8月、会津若松城下に侵入

新政府はアームストロング砲。ライフルカノン砲など50門の大砲で包囲

旧会津藩主「松平容保」は1カ月の籠城の末降伏

家名断絶という厳しい処分を下した



近代化する日本 幕末維新期の戦争と武器

エンフィールド銃は弾を銃口から込める「前装式」であった

長州藩のスナイデル銃は銃身後部から弾を込める「後装式」であったため

戦場では優位に立つことができた



絵馬に描かれた軍装

軍装は工夫され和洋折衷のものが使われた



携帯食器

これは今でも十分通用する



中には 16 人分の弁当入れ、中央には水または酒を入れる筒が収まっている



萩藩の携帯食器



中には 20 人分の弁当入れ、中央には米びつが収まっている



カフェで一服 抹茶 300 円、お菓子 300 円



萩焼でお茶をたててくれた



上手いか下手かは素人には分からないが
たぶんうまくたてであると思う 作法に乗っ取りいただく



夏みかんの砂糖菓子



この模様が萩焼の特徴



他で萩焼の湯飲み茶わんをお土産に買って子供に送った
おまけに2個サービスしてくれた



自分は妻がつくる甘酒を萩焼で飲んでいる



萩 武家屋敷と高杉晋作の生家

2020-12-23 17:04:17

明倫館から歩いて武家屋敷へ



山縣有朋像



1838 年生まれ 松下村塾で学ぶ 後に日本陸軍を建設



高杉晋作像



萩城城下町



萩城城下町

ここは中級武士の屋敷



こんな塀が続く



円政寺



石灯籠は高さ4.3mで県下最大



木戸孝允(桂小五郎)

1833 年生まれ 1852 年に江戸に出るまでの 20 年間この家で過ごした



17 歳の時に藩校明倫館で、その後松下村塾で学ぶ 明治新政府では「五箇条の御誓文」の作成に参画 西南戦争のさなか、45 歳で京都で病死



木戸家



当時のまま残されている



1926年、子孫により萩市に寄贈された



菊屋家住宅



毛利藩の御用を務め、藩を支えた豪商の家



白壁



ガイドブックに登場する景色



田中儀一郎
不思議な玄関



かまぼこ型の門



昭和2年内閣総理大臣 外務大臣、拓務大臣兼務



ここもよくポスター等に使われている



ここは



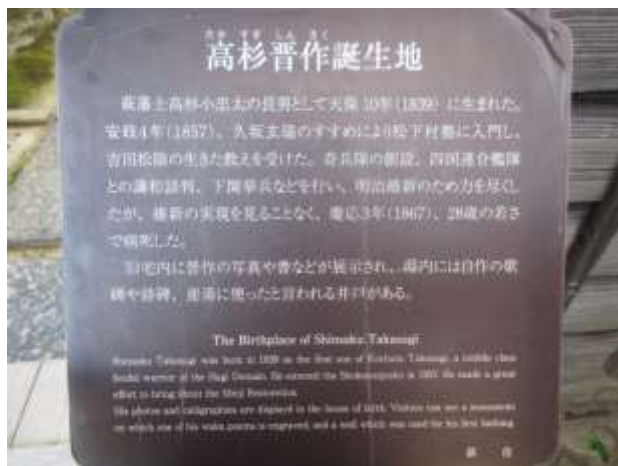
高杉晋作の生家



1839 年生まれ

「久坂元瑞(くさかげんずい)」の勧めで松下村塾に入門

1867 年維新の現実を見ることなく 28 歳で病死



庭



鎮守堂



石碑



奥右は両親の写真



本人の写真



妻と長男の写真

高杉東一は外交官を務める



東行先生(松陰)の句



産湯に浸かった井戸



高杉晋作略伝



庭の万両(まんりょう)

下に実をつけるのが万両、上に実をつけるのが千両



帰り道の土産屋



青きり



間引いた夏みかんの砂糖菓子



香りが強い



ゆず風味のポテトチップス



長州地サイダー



歩いて東萩に向かう
途中のスーパーキヌヤ



寺通り



「愛心」と「慈悲心」



この塀の石垣はあまり見かけない 石の積み方が違うレンガ積み
万里の長城、朝鮮の城もこの積み方だという



スーパーサンマート



橋を渡る



城下側の堤防の高さ



庶民側の堤防 古い堤防は低いため継ぎ足してある こうしたことは世界中に見られる



川の左と右とは大違い 吉田松陰の生家は右側 左の山が萩城跡



当時の地図 城下以外は書かれていない
城下以外は「半農藩士」か貧農民、あるいは…………



次回は萩のスーパーマーケットを紹介します

萩市内のショッピングセンター「アトラス」

萩市の中心地

東周り、西回りの 100 円バスの停留所はすぐ前

2 階建てでワンストップショッピングができる商業施設



株式会社丸久

本拠地は山口県防府市

店舗数: 88 店 (2020 年 2 月期)

売上高: 923.18 億円 (2020 年 2 月期 アルク 43 店舗、マルキュウ 16 店舗、サンマート 18 店舗、アトラス 1 店舗、ピクロス 1 店舗、中央フード 8 店舗、アクトス 1 店舗)



近くのバスターミナルにはサンリブ



飲食店ビル

残念ながら歯抜け状態

地方都市は地元の外食(食堂、喫茶店)が激減している

生き残っているのはチェーン店と高級店



特売チラシ



地方のスーパーマーケットを見て歩くことは楽しい
結局 3 回お邪魔した
他のスーパーも見かけたがこの店に全集中した

青果売場



生食できる小松菜「フリルレタスとミックスしてサラダで」



こんな分かりやすいPOP「生姜の種類と特徴」が書かれている
テープを使わず、マグネットを使いテープ跡が残らないようにしている



甘鯛 1280 円 現地は安い
これは食べて帰らないと



あんこう鍋用 萩産あんこう切身 580 円



鮮魚の握り寿司



干しだら

最近見なくなった スペイン、ポルトガルではよく食べられている



萩産のブランド牛



やきとり売場



大きな白身フライののり弁



水軍むしびと山賊むすび ローカル色が強いおにぎり



焼うどん、焼きそば、瓦風そば自家製の焼き麺



田舎押し寿司 これもローカル商品



チルド瓦そば



ホットプレート、フライパンで蒸し焼きと書かれている
茶そばを焼きそばのように食べる



やまぐち県酪 マイルドなコーヒー
よく売れている



アトラス内のレストラン



メニュー



NEW 牛、海老天重セット 780 円



海老天 2 本と牛煮込みを玉子でとじたもの
手間がかかっている



揚げ玉を足して



EMPTY DISHES



ひかりバナナ 2本 398円



山口県光市の国産バナナ
光市は伊藤博文が生まれた場所
今回計画に入れている



しっかりとした食感で上品な甘さ



チョコレギサラダ 198 円

ドレッシングは添付されていないがこのボリュームでこの安さ



カットフルーツ 98 円

このくらいのサイズがちょうどいい



海鮮いなり寿司 398 円



鮮魚売場の寿司

稲荷の皮から海鮮が溢れるほどのボリューム



白身魚フライののり弁 380 円



白身魚フライ、ちくわの磯辺揚げ、鶏唐揚げ、玉子焼き、タルタルソースが基本
白身魚の味がいい



水軍むすび 198 円 中身は鮭、辛子明太子、しそ昆布 これは初めて見た



長州鶏やきとりレバー 2本 220 円

時間が経っても柔らかい 鮮度がいいため臭いもしない



やまぐち県酪 マイルドなコーヒー 75 円

生乳 50% 地元の乳業メーカーだけあってファンも多いようだ



あずきふかし 118 円

粒あんマーガリンを蒸しパンで挟んだもの ふわっとしている



山焼きだんご 278 円

小さな小さな団子 3 個串に刺されている



山賊焼味ポテトチップス 98 円

カルビーポテトチップのご当地版 山口名物は「鶏の山賊焼串刺し」

そのフレーバのポテトチップス



最中海藻スープ 500 円 のどぐろ入り



半分に割って熱湯を注ぐ 包丁で切らないとうまく半分に切れない

手で割るとクシャクシャになるがそれもいい



お湯を注ぐと最中の皮が溶ける



夕食にいただく
今日は一汁三菜



次回は萩博物館と萩城跡を紹介します

我が家のクリスマス 松本の鶏加工品メーカー本郷鶏肉さんが鶏製品を送ってきた
これでクリスマスメニューをつくる



ローストチキン、山賊焼、ブロッコリーと肉団子のサラダ、フルーツケーキ



調理済みのローストチキンをグリルする

手前はガーリックポテト ジャがいもをボイルして片栗粉をまぶしバターでソティしたもの



粒マスタードで



粒コショーで



キレイにいただきました



山賊焼

フライドチキンの変わりだがここまでは食べられない



翌日「チキンパルマ」をつくる

山賊焼きにケチャップ、ウスターソースを混ぜたソースを塗る

ソースは多めの方がいい

茹でたブロッコリー、プチトマト二分の一、パプリカ、ベビーリーフ、シュレットチーズをトッピングしてオーブンで焼く ポテトは前日の余りのガーリックポテト



中はこんな感じ外はパリパリで中はジューシー



トマト味のミートボールとブロッコリーサラダ タワーのように作るのは難しい



ミートボールは一度ボイルして冷して盛り付けた
これが意外とおいしい
ブロッコリーとの相性もいい



フルーツ添えショートケーキ
市販のショートケーキにカットフルーツを加えた
フルーツにホイップをつけて食べる
ホイップクリームをつくる必要がない



萩の続き 萩博物館へ
途中の「田中義一」の銅像



田中義一
近代の軍人 陸軍大将、内閣総理大臣



萩博物館へ



萩博物館入口



展示内容



こちらは正面入口

左に赤いものが



ナンバーがついているため現役か



レオ消防ポンプ自動車

米国のレオのシャーシーをヤナセが輸入し、市原ポンプ諸機械製作所がポンプ車に仕立てた



毛利氏の研究

明倫館と展示がダブるため、ここは毛利氏に集中した



毛利家の家紋



一文字い三ツ星

毛利の三本の矢にも関係があるのか



当時の地図



萩城レプリカ



山の頂上の見張り台と籠城場所



当時の城下町



毛利氏の鎧



兜の頭には龍



裏家紋の「五七桐」



毛利家の家系図と藩主

毛利家の系図と江戸時代前期の主な藩主

● 毛利は中国(東洋)系家系として行世

● 輝元の長男にして初代藩主

● 長州藩の憲法を定めた2代藩主

● 藩校明倫館を創建した5代藩主

Mōri Family Pedigree and Principal Feudal Lords of the Early Edo Period

1st Domain Lord: Mōri Motonobu, Who Established the Mainstem of the Chōshū Domain
 Born in 1534, Mōri Motonobu was Mōri Motonari's grandfather. He was a powerful warlord who established the mainstem of the Chōshū Domain. He was a member of the Mōri clan, which was a branch of the Taira clan. He was a powerful warlord who established the mainstem of the Chōshū Domain. He was a member of the Mōri clan, which was a branch of the Taira clan.

2nd Domain Lord: Mōri Motonari, Who Established the Mainstem of the Chōshū Domain
 Born in 1568, Mōri Motonari was Mōri Motonobu's son. He was a powerful warlord who established the mainstem of the Chōshū Domain. He was a member of the Mōri clan, which was a branch of the Taira clan.

5th Domain Lord: Mōri Motonari, Who Established the Mainstem of the Chōshū Domain
 Born in 1627, Mōri Motonari was Mōri Motonobu's grandson. He was a powerful warlord who established the mainstem of the Chōshū Domain. He was a member of the Mōri clan, which was a branch of the Taira clan.

毛利氏が入る以前の萩

「大内義隆」 1507 年生まれ 周防、長門、豊前、筑前、安芸、石見の 6 力国の守護となる
 「吉見正頼」 1513 年生まれ 石見国西部から長門国にかけて勢力を伸ばした
 後に毛利元就に従う

毛利氏が入る以前の萩 室町・戦国時代

毛利氏が城下町を建設する以前から、萩の三角州内には「ひと」が暮らし、「まち」が築かれつつあった。残された手がかりは少ないが、大内氏と吉見氏に関する資料を通して、室町・戦国時代の萩三角州の様子を垣間見よう。

山口で栄華を誇った戦国大名
大内義隆
 永正4年(1507)生まれ。父義興の没後に家督を継ぎ、周防・長門・豊前・筑前・安芸・石見の6カ国の守護となる(のちに備後も加え7カ国)。本拠の山口(山口市)に、京都から公家を迎えて学問を奨励、中国(明)や朝鮮と交際を行い、ザビエル(サビエル)に布教を許すなどして、独特の文化を発展させた。天文20年(1551)、豊臣陶晴賢に反乱を起こされ、天守寺(松門寺)で自刃した。

萩の指月山麓に居館を設けて城下を形成
吉見正頼
 永正10年(1513)生まれ。三本松城(豊前津和野町)を本拠とし、石見国西部から長門国にかけて勢力を伸ばしていた。妻は大内義興の三女で義隆の姉。大内氏、義隆の義隆が陶晴賢の反乱により自刃した後、陶氏が創立した大内義隆に抵抗、毛利元就に臣じ、弘治元年(1555)萩原の戦いで陶氏に勝利した。のちに萩の指月山麓に居館を設け居館。天正16年(1588)に没後、善福寺に葬られた。

Hagi Before the Mōri Clan Arrived — Muramachi and Sangaku Periods —
 Even before the Mōri clan built their castle here, there were people living on the Hagi delta and a town was beginning to form. How close it was then remains unclear, but we can get a sense of what life was like on the Hagi delta during the Muramachi and Sangaku periods through documents relating to the Ōuchi and Yuki clans.

Ōuchi Yoshitaka: A Sangaku Period Daimyo Who Clothed Yamaguchi in Glory
 Born in 1507, After the death of his father Yoshiki, he took over as the head of the family and became governor of the six provinces of San'yū: Suō, Nagato, Bizen, Chikuzen, Aki and Iwano (Izumi later became the seventh province). From his stronghold of Sangaku (present-day Yamaguchi City), he welcomed court nobles from Kyoto. He encouraged learning, cultivated trade with Ming China and Korea, and allowed Francisco de Xavier to carry out missionary work. This led to the development of a unique culture. In 1551, He would Sue Harada to a rebellion against him, and he committed suicide for the second Tenmei Temple (Tenmei-ji).

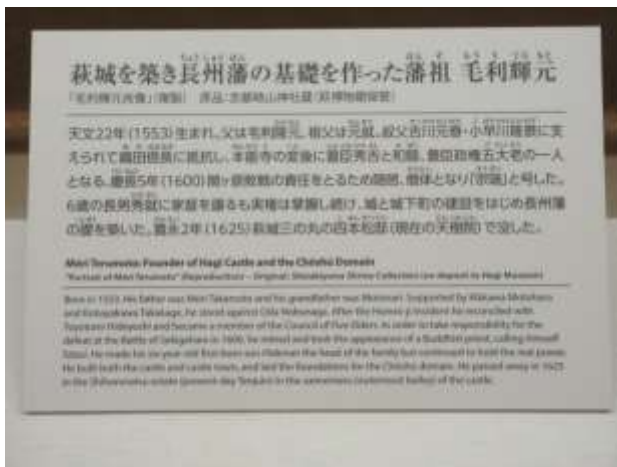
Yuki Masayuki: Building an Estate at Hagi Shiroki and Developing the Land Near the Castle
 Born in 1513, He was a loyal servant of his superior strength and was in San'yū Province. He was a powerful warlord who established the mainstem of the Chōshū Domain. He was a member of the Yuki clan, which was a branch of the Taira clan.

天正 19 年、毛利輝元は豊臣秀頼より、安芸、備後、周防、長門、石見、出雲、隠岐、伯耆(ほうき 3 郡)、備中(半国)の 112 万石を拝領
 しかし、関ヶ原の戦いの敗戦後、領地を長門、周防に減らされ

広島城を明け渡し、萩城を築くことになる



「本能寺の変」後に豊臣秀吉と和睦し、五大老の一人となる
「関ヶ原の戦い」の責任を取るために隠居、僧体となる



萩藩は金持ちであった

毛利氏は蓄財をしていた

ボランティアの話によると、石高を過少申請、石見銀山の銀の備蓄、二重帳簿作成、密貿易などでかなり蓄財していたという

「毎年の正月にいつ倒幕するか」と話題になる

萩藩は倒幕の準備をしていたという話もある

「長州の武器購入資金はどこが出した」など謎に包まれているが資金はあったようだ

イギリス資金援助説と諸説あるが

両側に取り手がついているため五升ますか？

本当は5.5升ます 1割水増ししてあるという

こうして蓄財を密に行っていた



吉田松陰の松下村塾から明治維新へ



松下村塾 熟生



萩の夏みかん

萩の町にはどこにも夏みかんの木がある

大正 15 年 5 月 当時の皇太子、後の昭和天皇が萩を訪れた時

「この町には香水がまいてあるのか」と言われたほど夏みかんの木が多かった



夏みかんは縁起の良い果実

土産物屋の御主人が

夏みかんは放っておけば、5 月頃まで実が残り、新しい実と重なる」という

親子二代木になる植物は少ないという

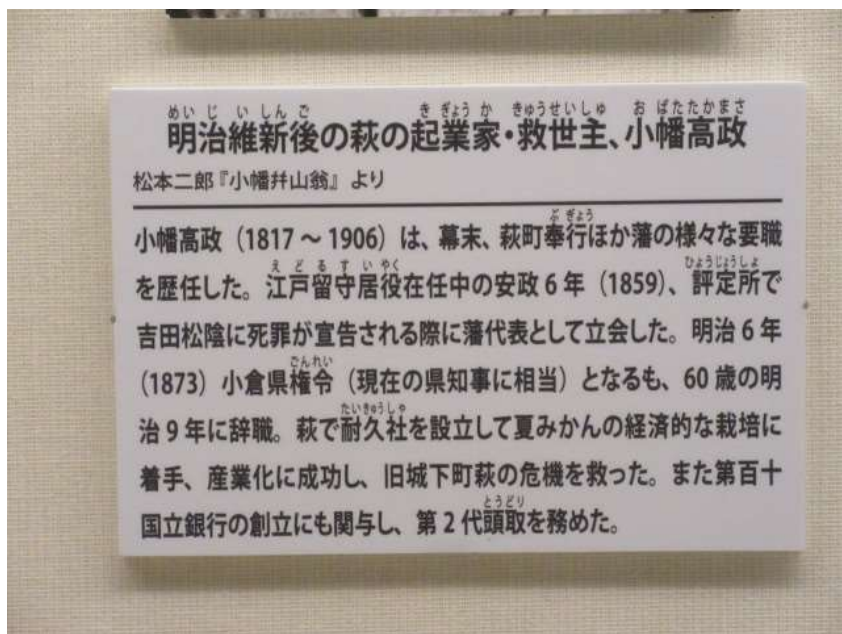


小幡高政



夏みかんが萩の財政を救った

小幡は困窮した氏族を救うため、廃屋同然となった広大な侍屋敷の土地に夏みかんを栽培した
明治 22 年には夏みかんと苗の収益が萩町の財政を追い越すようになり、萩の町全体に広がった



明治維新後の萩の起業家・救世主、小幡高政

松本二郎『小幡并山翁』より

小幡高政（1817～1906）は、幕末、萩町奉行ほか藩の様々な要職を歴任した。江戸留守居役在任中の安政 6 年（1859）、評定所で吉田松陰に死罪が宣告される際に藩代表として立会した。明治 6 年（1873）小倉県権令（現在の県知事に相当）となるも、60 歳の明治 9 年に辞職。萩で耐久社を設立して夏みかんの経済的な栽培に着手、産業化に成功し、旧城下町萩の危機を救った。また第百十国立銀行の創立にも関与し、第 2 代頭取を務めた。

博物館の中庭



上級武士の屋敷を抜けて萩城跡に向かう



萩には不思議な建造物が沢山ある

「萩城址」と「平安古鍵曲(ひやかかいまがり)」

2020-12-27 17:01:10

南アルプスがキレイだ

はりはり漬けをつくる

伊那谷は雪が少なく寒冷で乾燥することから、

昔から「高野豆腐」「寒天」「氷餅」など自然のフリーズドライ商品が作られていた



「はりはり漬け」を漬ける 大根の短冊切り



拍子切り



屋外で3日間乾燥させる(夜間は家に入れるが)



こんな感じになる



さらに乾燥させれば切干大根になるが半乾きにしておく



松前漬けの素、切昆布と切イカ、ゆず、鷹の爪を使う



醤油、麵つゆ、砂糖、酢、酒を火にかけひと煮立ちさせ、熱いまま干した大根に漬ける
ネットで調べればレシピを見られる、しかしレシピ—は他人のもの
人まねしてもしょうがないので、参考にしつつオリジナルな調味液をつくる レシピに頼ってばかり
いると、一生人まねで終わってしまう それではつまらない



2日ほど経てばできあがり



短冊切り



拍子切り

同じ調味液を使っても味が違う

短冊の方が甘く感じ、拍子のほうが塩味を感じる

それでもどちらもパリパリでおいしい



萩観光続き

東駅前の萩城のレプリカ



武家屋敷を抜けて萩城址に向かう

上級武士の家の塀は長い



こんな塀が これは新しそうだ



瓦と土を交互に挟んだつくり これは初めて見た
中国や韓国の影響があったかもしれない



古い塀の跡



かなり古いものだが同じ造りだ



旧毛利家別邸表門



常に城に住んでいるわけではない
普段は別邸に住んで非常時だけ城に移る



川(堀)を渡って萩城跡に向かう



入口の奥に銅像が見える



毛利輝元像



毛利輝元

1553 年、毛利隆元の長男として安芸国吉田郡「郡山城（現在安芸高田市）」に生まれる
秀吉時代は五家老で、中国地方 8 カ国 112 万石を拝領
関ヶ原の戦いに敗れ、2 カ国 36.9 万石に削封される
1604 年、居城を萩に選定
1625 年、73 歳で没し、萩城三の丸の天樹院に葬られた



櫓跡 ここは虎口になっている



堀の橋



説明書き



指月山(しづきやま)

頂上は見張台と籠城できる建物

時間があれば登ったのだが



天守跡



堀内



天守の基礎石



白亜五層の天守の高さは14.4m 19.8㎡



志都岐山神社



祭神は、毛利元就、隆元、輝元など 5 柱
初代から 12 代まで萩藩主が祀られている



明倫館遺構 万歳橋



欄干の様

ラーメン井模様



中国上代の形式を模倣した橋 1849年明倫館から移築された



連理の松



違う枝同志が繋がっている



「唐代の玄宗皇帝と楊貴妃が、地上では結ばれた二本の枝になろうと誓い合った」とする中国の詩人白居易の「長恨歌」の一説が由来だと言われている
萩は中国、朝鮮に近いためいろいろな文化が伝わった



旧厚狭(あさ)毛利家萩屋敷長屋
毛利輝元の五男元秋を祖とする厚狭毛利家の屋敷跡
萩に現存する武家屋敷の中で最大規模



後日バスに乗って「久坂玄瑞の生家」と「平安古鍵曲(かいまがり)」へ

久坂玄瑞(くさかげんずい)生家

1840年～1864年

幕末の長州藩士 尊王攘夷の中心人物

妻は「吉田松陰」の妹 文

坂本龍馬は久坂玄瑞宛の手紙を持参し、玄瑞に影響を受け脱藩を決意

禁門の変(蛤御門の変)で自害 享年 25 歳



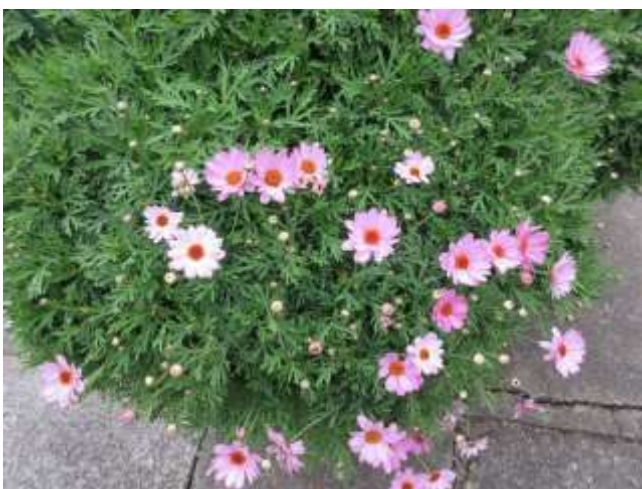
この場所は中級武士と下級武士の境目くらい
建物らしきものは残っていない



あまり読めない



こんな花が



川(堀)沿いを歩く 長い塀が続く

外洋から城下へ来られるため防衛には気を使っていた



鴨が泳いでいる のどかだ



夏みかん園



今は「甘夏」「はっさく」が植えられている



平安古鍵曲

城下町特有の鍵手形の道



外国のようないい景色だ



どう見ても海外の影響を受けているように思える



ベトナムのような印象
やはり中国の影響かな



児玉家屋敷跡の交流館



ボランティアが常駐
少し話を聞く



見事な庭

右の橋の下をくぐり屋敷まで船を回すことができたという



次回は、いよいよ川を渡った「松陰神社」へ

萩のガストロノミー

2020-12-28 17:24:24

名古屋の「旬楽膳」に行ってきました

カネスエ傘下のナチュラルフードストア

現在中京地区に4店舗展開

ライフスタイルの多様化でこうした店も繁盛している

東京ではイオン系の「ビオセボン」、最近ライフ系の「ビオラル」がオープンした

20品ほど購入したので随時紹介してゆきます



それよりも腹ごしらえ

「うなぎ」

名古屋インター近く 鰻一本一本の身の固さを見ながら備長炭で丁寧に焼き上げる

ふっくら香ばし肉厚のうなぎが特徴



ひつまぶし

写真を見ると「半助(頭)」がついているように見える

「焼きうなぎ」は普通頭をつけることが多い

写真の左側に「武田菱」と「武田一族の涙」?のように見える

天井の蛍光灯が反射したものだが、後で写真を見て気づいた

近くには「小牧、長久の戦い(1584年 秀吉 vs 織田信雄(おだのぶかつ)、家康の戦い)」の古戦場がある

武田は1582年に滅亡し、徳川家康領になっていたが、信濃はこの戦いに徳川軍として参戦しているかも



まず「肝焼き」

照りもよく香ばしく焼かれている



つまぶし

お茶漬け用のだし汁、あられが添えられている



肝吸い



このグラデーション

意図的に焼き方を変えている



ひつまぶしは、まず手前からそのまま、次にわさびをつけて
最後はお茶づけに



うなぎは蒸したようにフワフワ
肉厚で脂も程よく乗っている



お茶漬けに 少し焦げ目のついたうなぎの香ばしさがたまらない



デザートのわらび餅



EMPTY DISHES ご飯は 300g以上ありそうで、少し食べ過ぎた



テイクアウト用メニュー

トレーがいい 後であまりにフワッと柔らかいので「蒸しですか？」と聞くと
 「いや脂の乗ったうなぎの地焼きです」という うなぎの様子を見ながら焼いているという
 車に乗って去ろうとすると、車まで来て 「地焼きは、直焼き」という字も使いますと教えてくれた
 これが名古屋のガストロノミー



萩のガストロノミー

萩の「どんどんうどん」 本部は山口県萩市

どんどんうどんは、山口県、島根県、広島県、岡山県、東京都に 30 店舗以上出店

萩バスターミナル近くのどんどんうどん

奥にサンリブの看板が見える



肉うどんがモーニングで 360 円



肉うどん+海老天

入口で注文して席に着くといきなり出てきた

テーブルに置くときにつゆを少しこぼした(箸入れが汚れている)

ねぎはカップ入り 海老天は昔懐かしい衣がサクサクタイプ



あっさりとした味でおいしい 海老天の衣はすぐに溶ける



こだわりの唐辛子



後で広島の友人が「どんどんうどん名物のわかめうどんは食べましたか？」と聞く
しまった食べていない
知らなかった(写真はホームページより)



どんどんのわかめむすび。

悔しいから自分で作ってみたが、現物は食べていないが
まだワカメが足りない



萩「村田蒲鉾店」 昭和 36 年創業の魚肉練製品店



製造工場の隣の直売店



人気メニューを聞くと



「じゃこ天」だという



外のベンチでいただく

しっかりとした食感でじゃことの相性もいい
ご馳走様でした



萩「割烹千代」

前日に電話して「甘鯛」を一尾注文しておいた



一人なのでカウンター席をお願いした



店内は落ち着いた雰囲気



コース料理が基本だが、アラカルトで注文



「突き出し(先付け)」と「ヒレ酒」

ヒレ酒は目の前でマッチで火をつけてアルコールを飛ばしてくれる

江戸時代の遊女の初夜を「突き出し」と言ったことから、初めて出る料理がその由来という説もある



イカの石焼き



焼き甘鯛半身
半身であるため頭は右を向いている



フワッと上手に焼かれている
味は間違いなかった



甘鯛の煮つけ
残りの半身は骨付きで頭は左

ご飯と汁も注文



甘鯛は尻尾が長い



里芋、豆腐、菜花が付け合わせ
これも美味しい



ご飯はじゃこ飯、海藻も添えてある



赤味噌のアラ汁
魚の生臭さは全然ない



EMPITY DISHES
大将に「上手に食べた」と褒められる



トイレにはお香、臭い消しにマッチが置かれている



帰り道に元遊郭の建物が残っていると聞いたため行ってみる



「芳和荘」今は健全な旅館になっている



次回は吉田松陰の徹底研究です

[萩「吉田松陰歴史館」](#)

2020-12-29 17:10:48

松陰神社

城下町から川を挟んだ地区にある松陰神社



薩長土連合密儀之處(ところ)



1862年1月、土佐藩士「坂本龍馬」は「久坂玄瑞」を訪ねた
たまたま薩摩藩士「田上藤七」も来ていた
久坂玄瑞を中心に薩長土の三藩士が一堂に会うことになり

後日の「薩長土連合」の前兆となった



萩松陰神社鳥居



松陰神社境内図

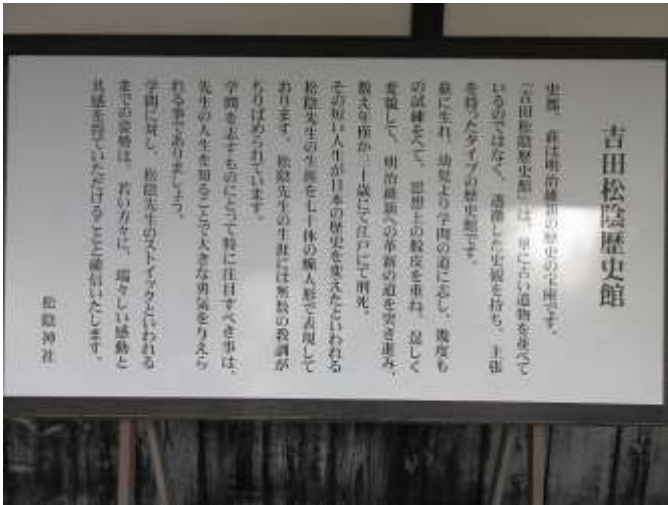


吉田松陰歴史館

鳥居を過ぎた左側にある



日本の歴史を変えたと言われる吉田松陰先生の生涯を70体のろう人形で表現している
これは分かりやすい



順路



杉一族の紹介

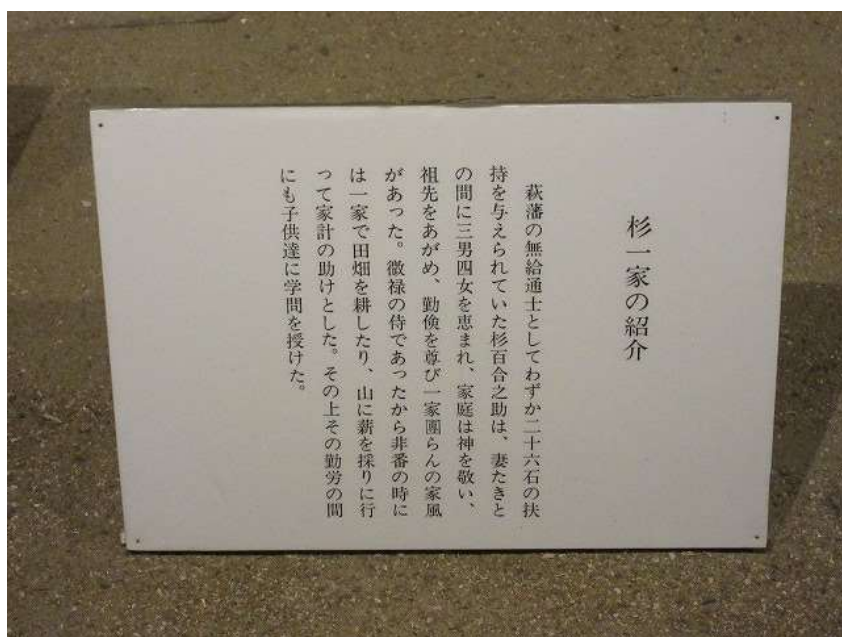


かなりリアルな蠟人形

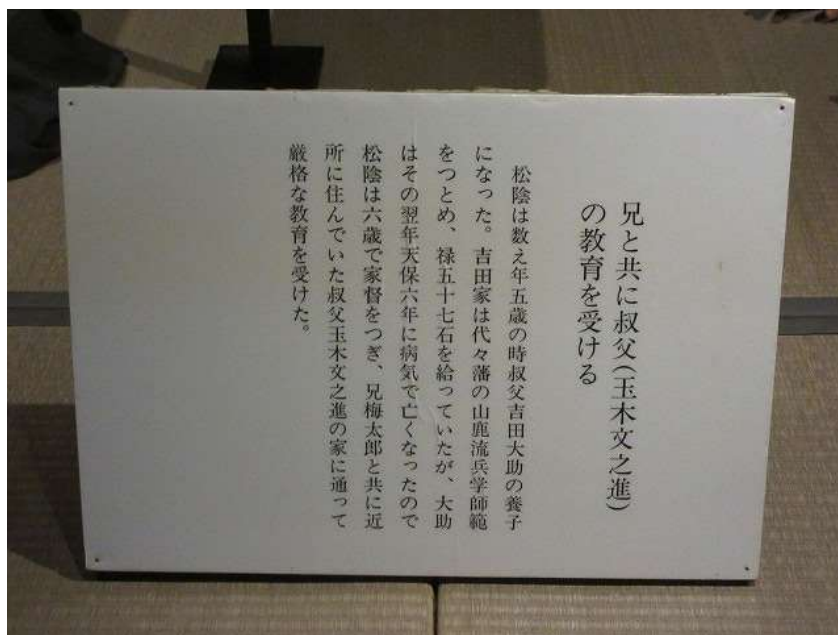
後に松陰の生家と墓所も訪れた



藩士の無給通士としてわずか26石を与えられた「杉百合之助」は妻との間に三男四女に恵まれた



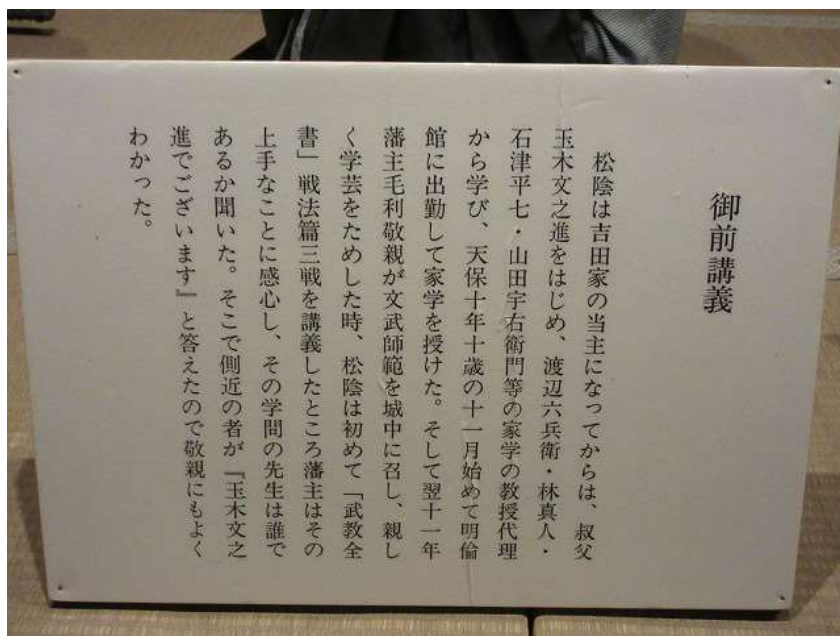
5歳の時に叔父「吉田大助」の養子になった松陰は、兄梅太郎と共に近所に住んでいた「玉木文之進」の家に通って厳格な教育を受ける



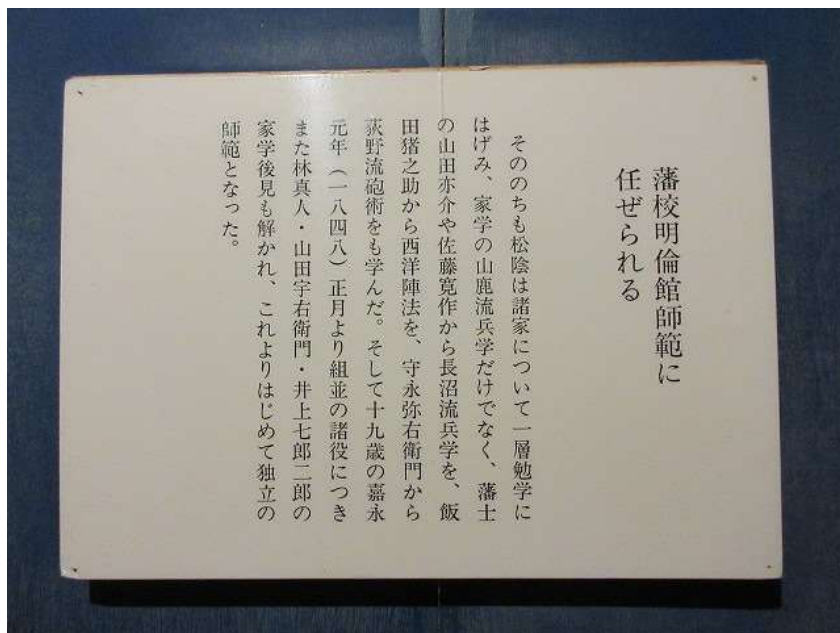
御前講義



天保 10 年初めて「明倫館」に出勤して家学を受けた
11 年、藩主毛利敬親の前で「武教全書」の講義を行った
藩主はその上手なことに感心した



藩校明倫館師範に任ぜられる
兵学の講義を行う



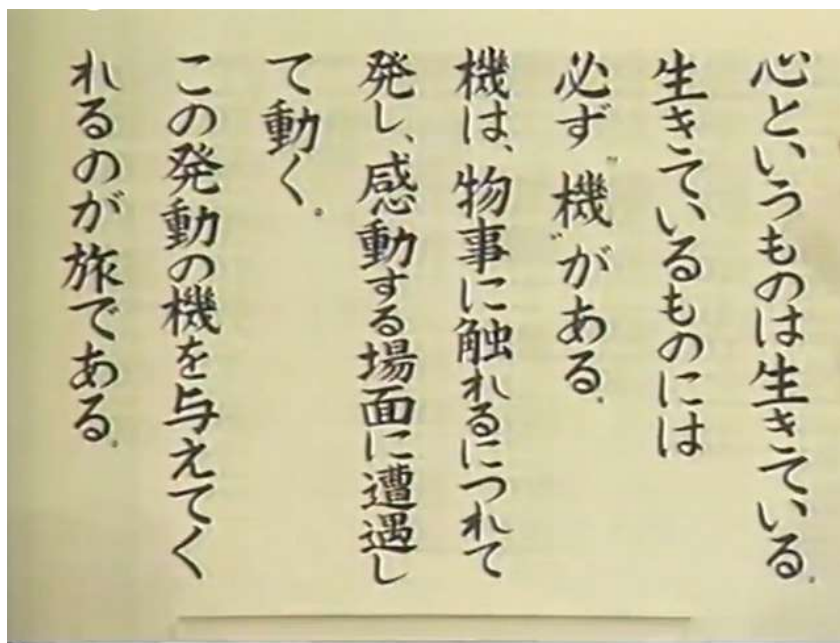
日本中を歩いて学んだ松陰



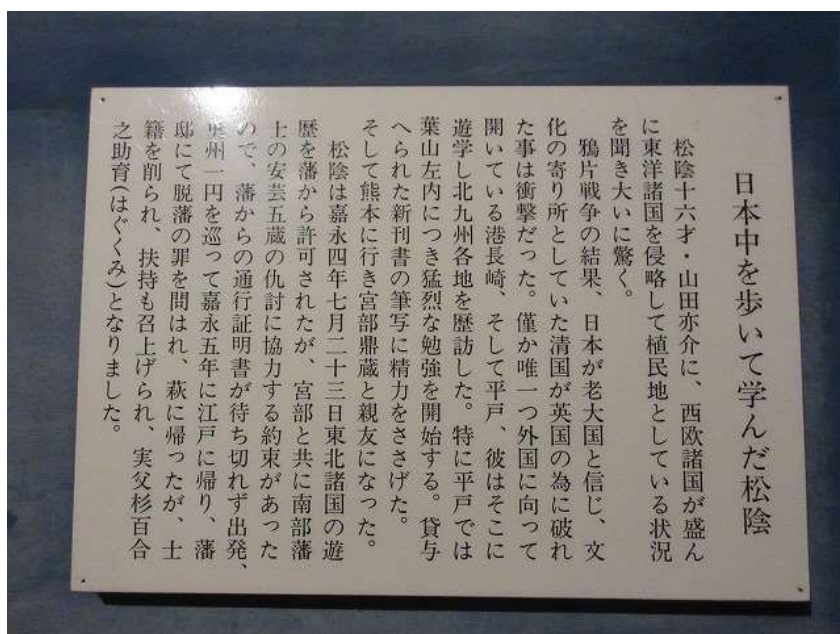
テレビ「知ってるつもり」より



旅の重要性について言っている



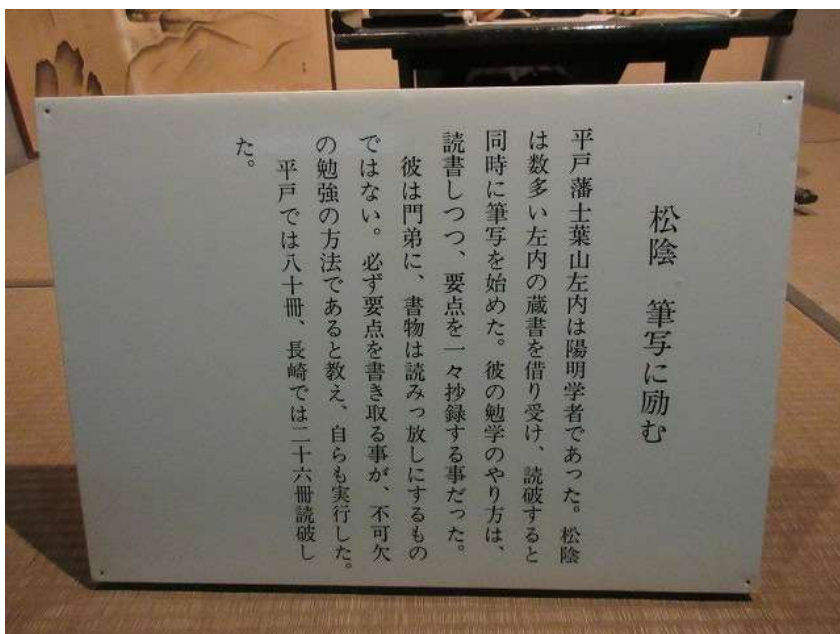
全国を旅したが藩邸にて脱藩の罪に問われ、士籍を削られ、扶持も召し上げられ
実父杉百合之介育(はぐくみ)となる



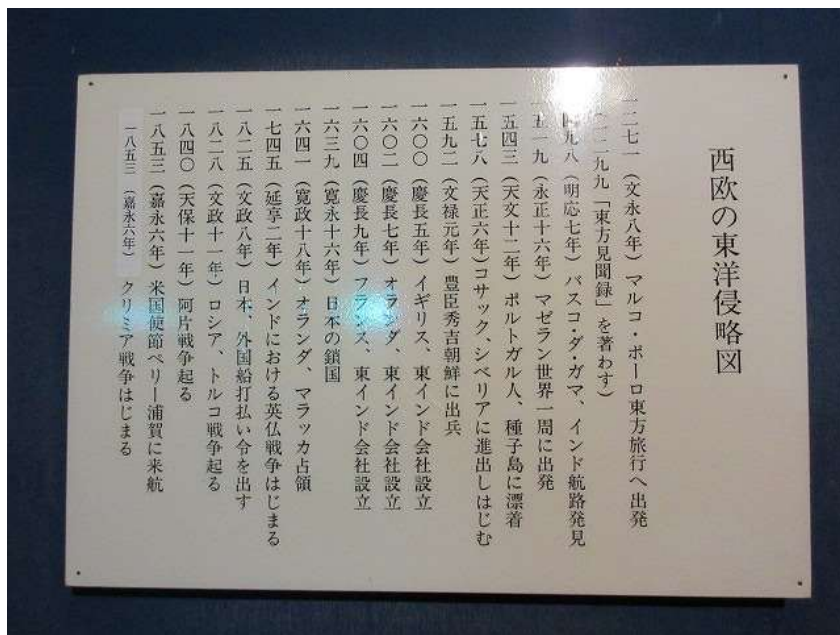
松陰 筆写に励む



書物は読みっぱなしではなく、必ず要点を書きとることが、不可欠の勉強方法であると教え自らも実行した



西欧の東洋侵略図



1271年、きっかけはマルコポーロの「東方見聞録」から



佐久間象山に入門

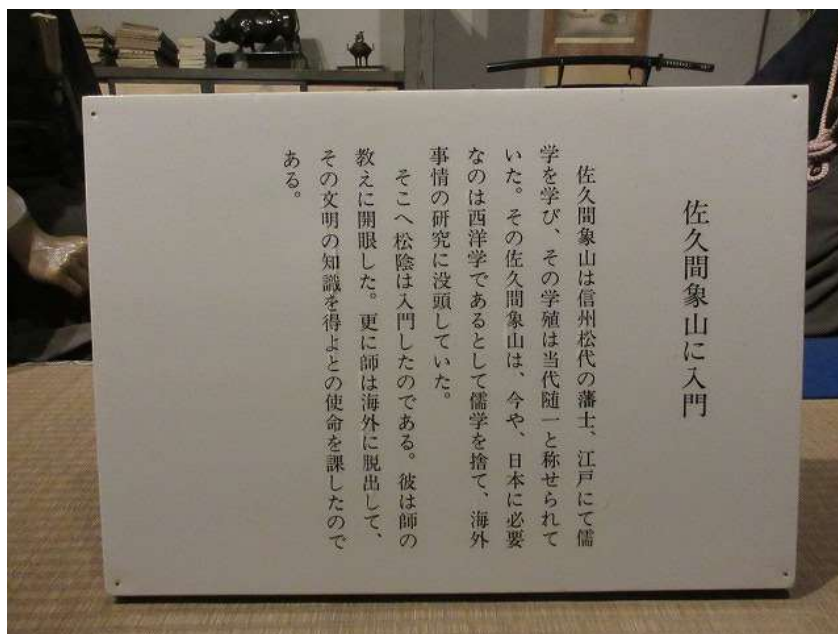
佐久間象山は、信州松代藩の藩士



吉田松陰、高杉晋作、久坂玄瑞、坂本龍馬、勝海舟も象山に学んでいる
象山 41 才の妻は、勝海舟の妹「お順」17 才
仲を取り持ったのが「坂本龍馬」
世の中意外と狭い



江戸に出て「儒学」を学び、その学殖は当代随一と称せられていた
しかし、象山は「儒学」を捨て、海外事情の研究に没頭した
これはなかなかできないこと



これはよくわからない



黒船来航

大統領の国書を持参して、武力外交も辞さない態度であった

黒船来航

藩主毛利敬親は松陰の亡命を惜しみ、且つ憐み、父百合之助に内々論じて十年間諸国遊学を申請させ、これを許可した。

松陰は通称を寅次郎と改め、江戸に入った。六月四日、ペルリ提督にひきいられたアメリカ軍艦四隻、浦賀に入港、強硬に開国を迫って来た。

ペルリは日本を開国させようという米国議会の決議の下に、大統領の国書を持参しての交渉で、武力外交も辞さない態度であったので、幕府は全くの恐慌におち入った。

永く泰平の眠をむさぼっていた日本国民に大きな警鐘となつて、にわかに外国への関心が高まった。





露国使節プチャーチン来日

松陰は外国に行かずして解るわけがない。

渡航を許されぬならば、行くまでの事である

長崎からロシア船に密航しようとしたが、すでに出航した後であった

露国使節プチャーチン来日

嘉永六年七月・ペリー来朝の翌月、ロシアの使節プチャーチンが、軍艦四隻を率いて長崎に来航。軍楽隊を先頭に街中を示威行進。矢張り通商和親条約を結ぶ様、幕府に迫った。外国に対する備は、日本の武器、兵力ではとても立ち打ち出来ない事は明確である。米国の次はロシアか、英国も仏蘭西もねらっているという。これ等の敵の事情も知らずに、戦うわけにはいかない。海外に行かずして解る訳はない。幕府があく迄、国法をたてにして渡航を許さないならば、行くまでの事である。ロシアの船に密航しようとして松陰の腹はきまり、急ぎ西下した。

一日十三里(五二キロ)飛ぶように急いだ、長崎に到着したら、既にロシア艦隊は出航したあとだった。失敗である。

当時の町の様子



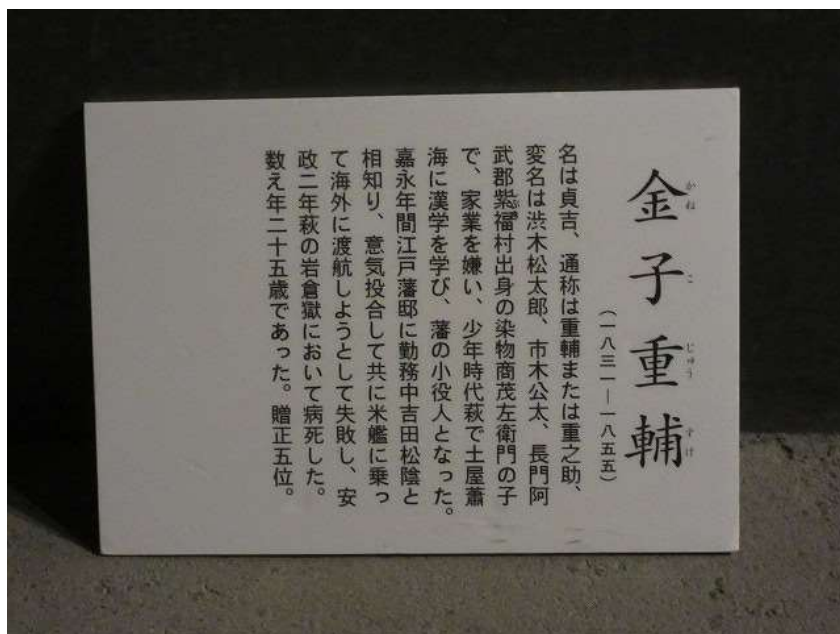
ペリーの軍艦に乗り込もうとする



金子重輔(かねこじゅうすけ)

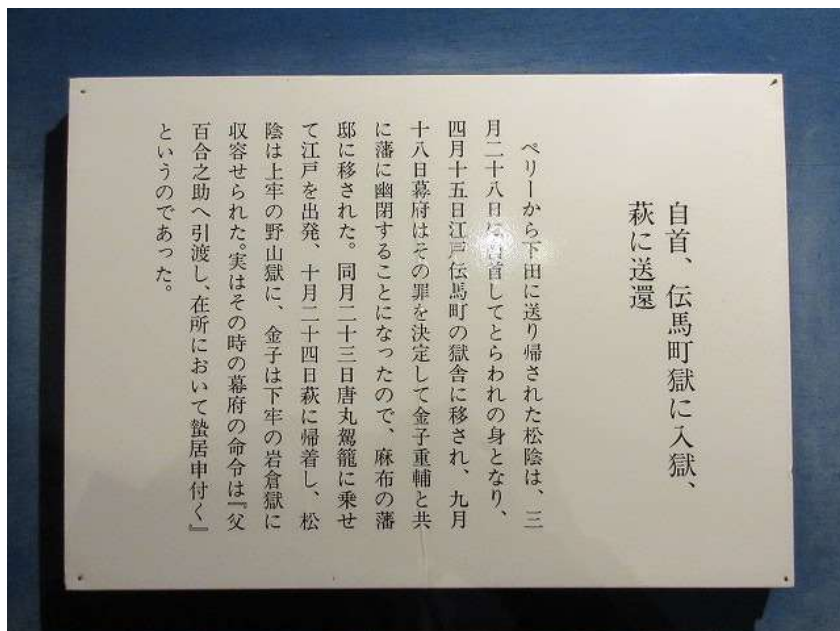
共に米艦に乗って海外に渡航しようとして失敗

25才で病死



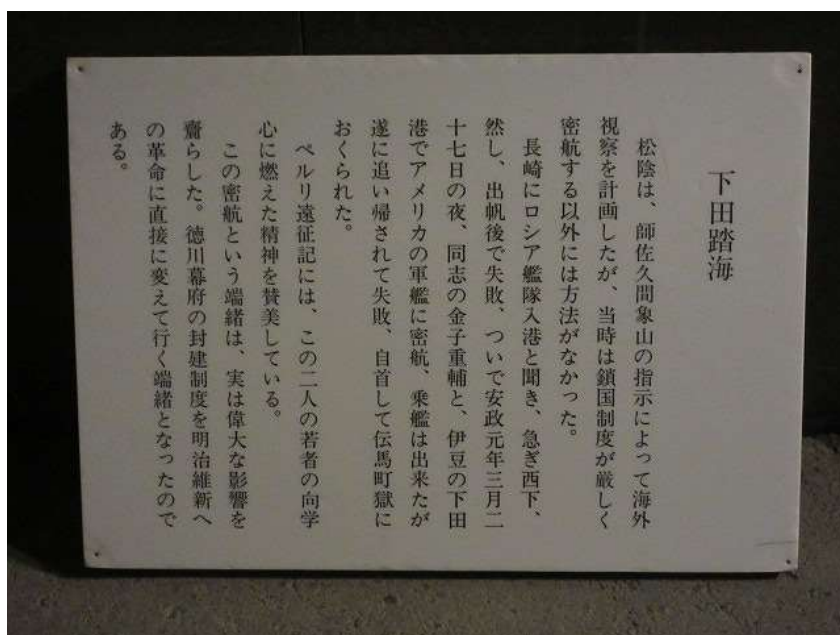
下田踏海

アメリカの軍艦に乗船できたが追い返されて失敗



自首して伝馬町獄に送られた

ペルリ遠征記には「この二人の若者の向学心に燃えた精神を賛美している」



安政の大獄

再び獄に入れられる

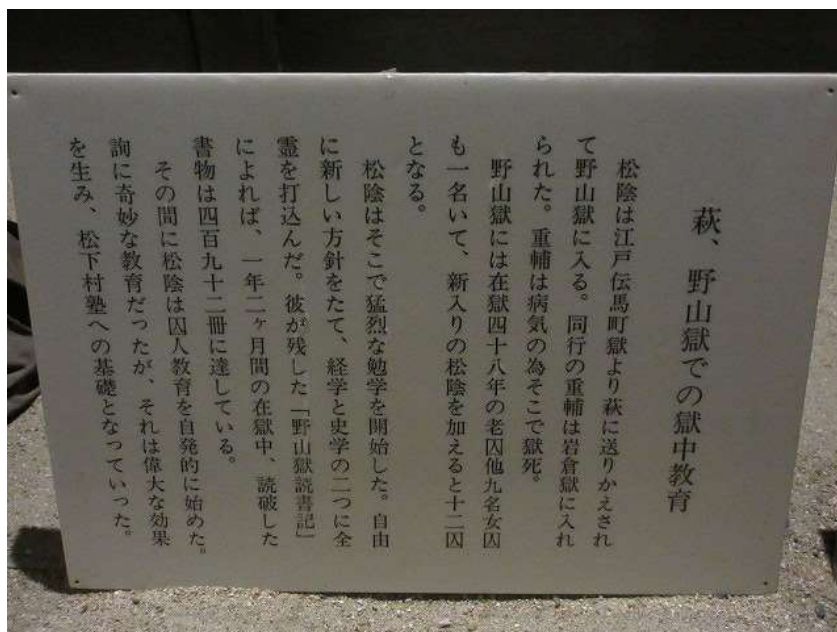


萩 野山獄での獄中教育



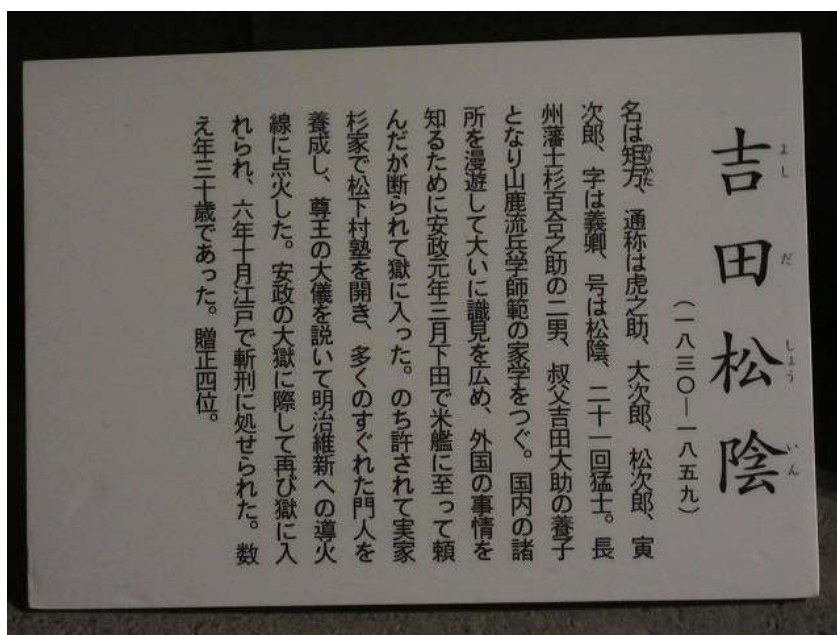
1年2カ月の在獄中松陰が読破した書物は492冊

囚人教育も自発的に行った



松下村塾

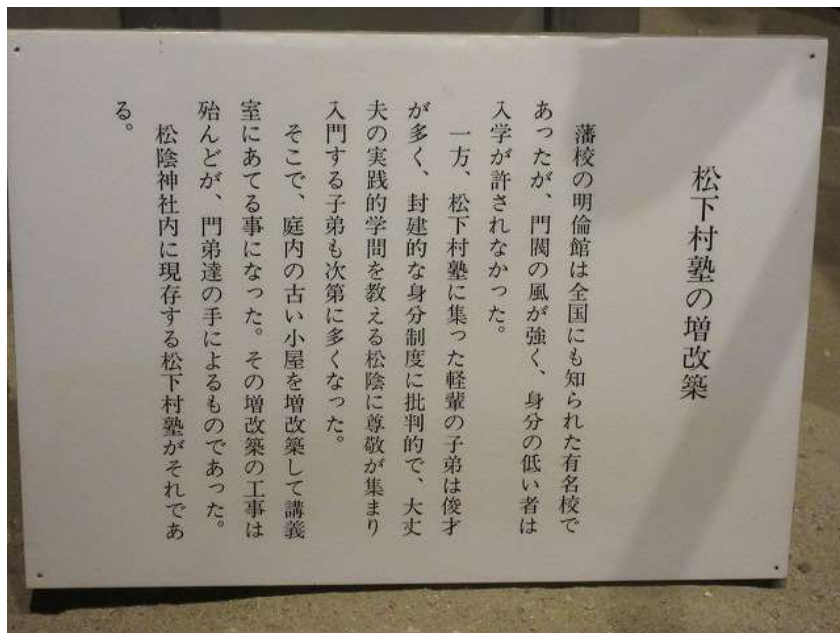
釈放後、許されて杉家で「松下村塾」を開き、多くの門下生を養育した



松下村塾の増改築



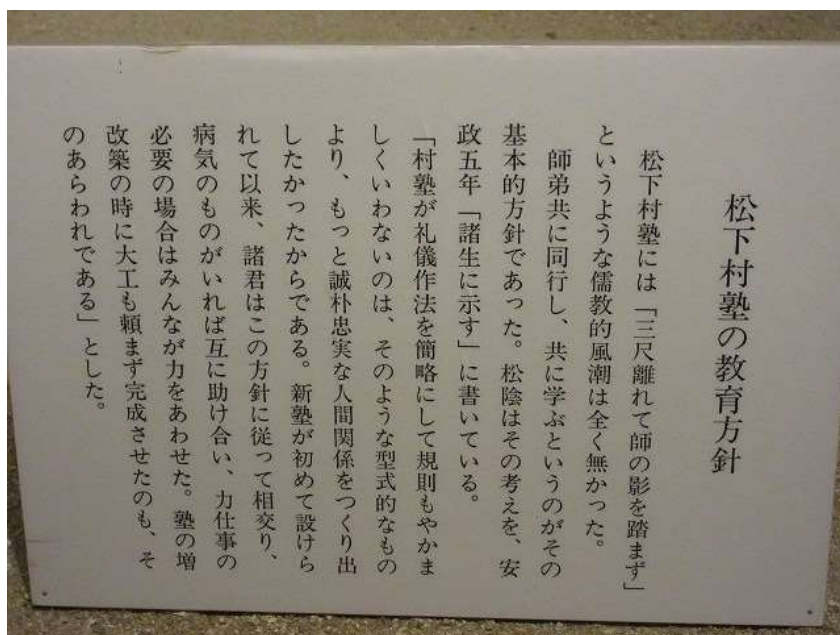
藩校の明倫館は全国にも知られた有名校であった
門閥の風が強く身分の低い者は入学できなかった
実践的学問を教える松陰に尊敬が集まり入門する子弟が多くなってゆく
そこで古い小屋を増改築した



松下村塾の教育

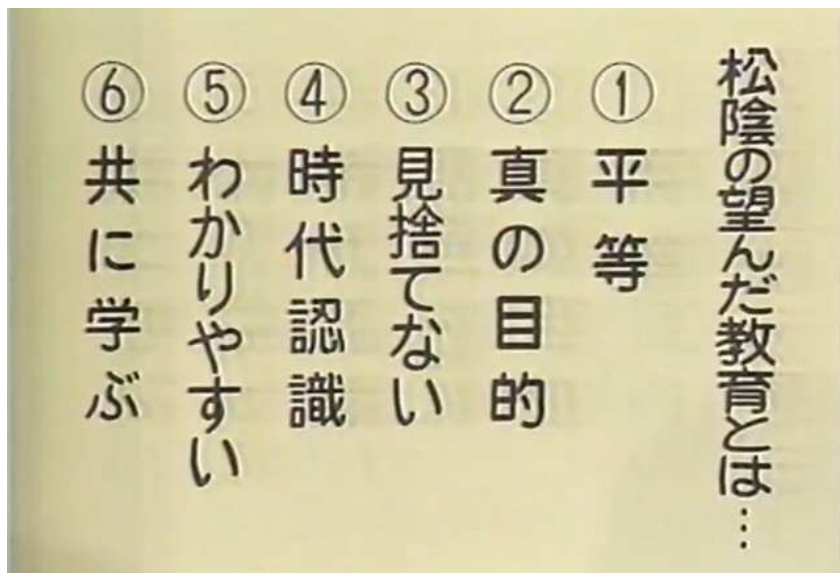


松下村塾は「三尺離れて師の影を踏まず」という儒教的な風潮はなかった



松陰の望んだ教育とは

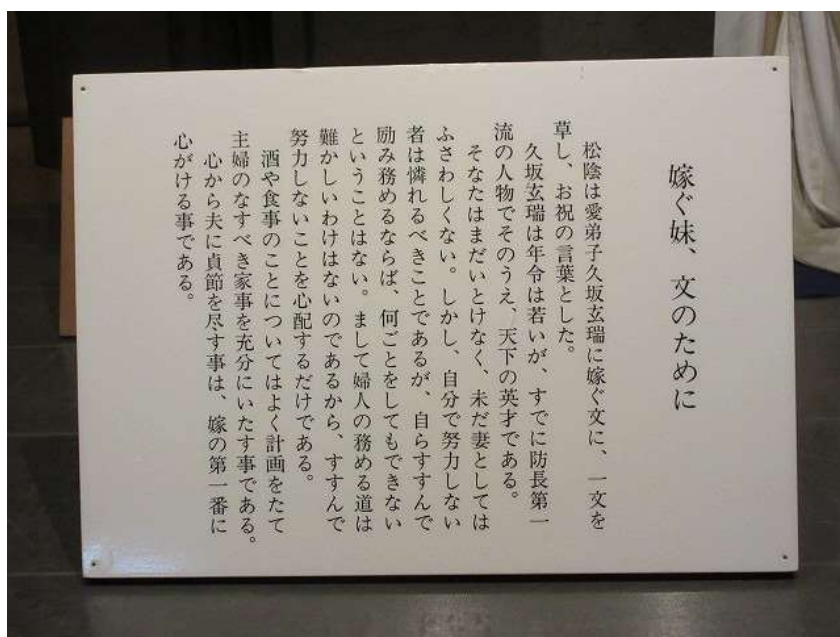
「知ってるつもり」より



嫁ぐ妹 文のために



松陰は愛弟子「久坂玄瑞」に嫁ぐ文に、1 文草し、お祝いの言葉とした

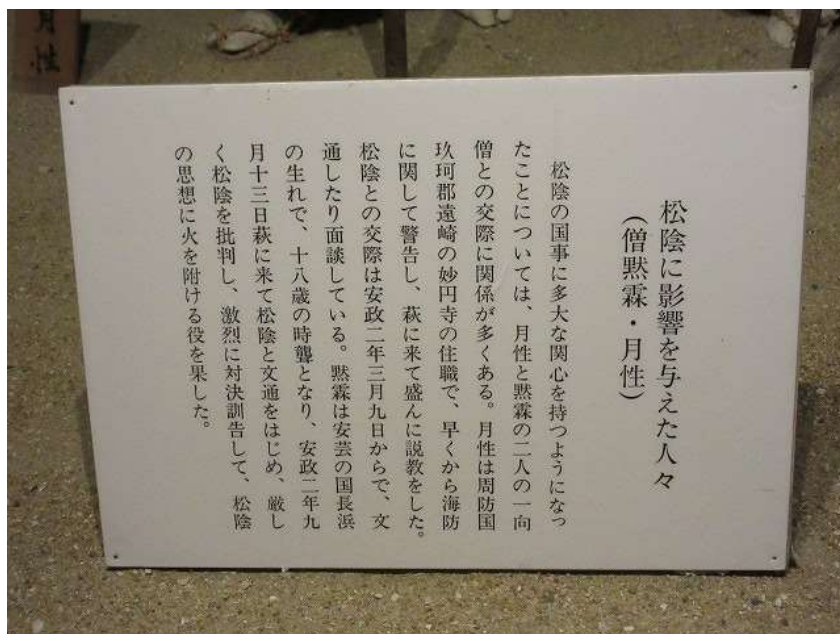


松陰に影響を与えた人々



僧黙森・月性

厳しく松陰を批判し、激烈に対決訓告して松陰の思想に火をつけた

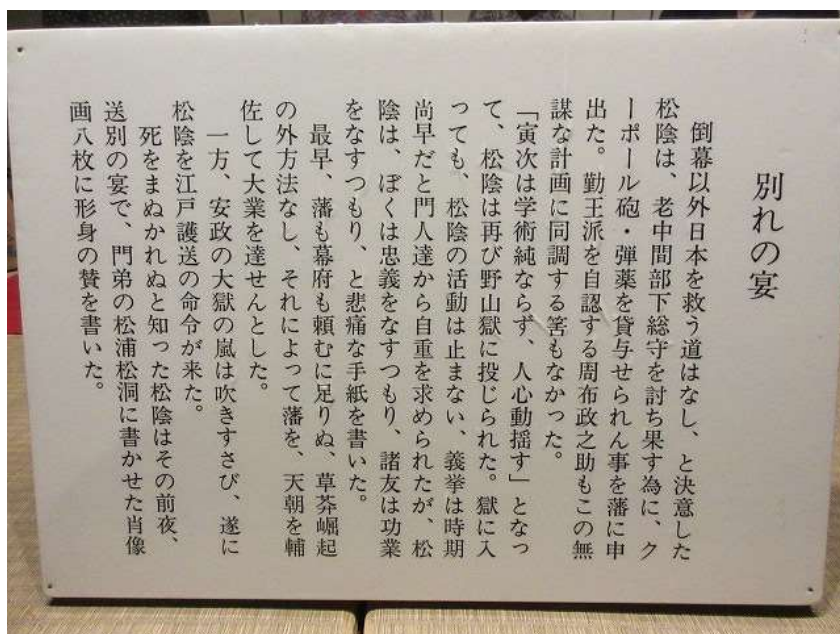


別れの宴

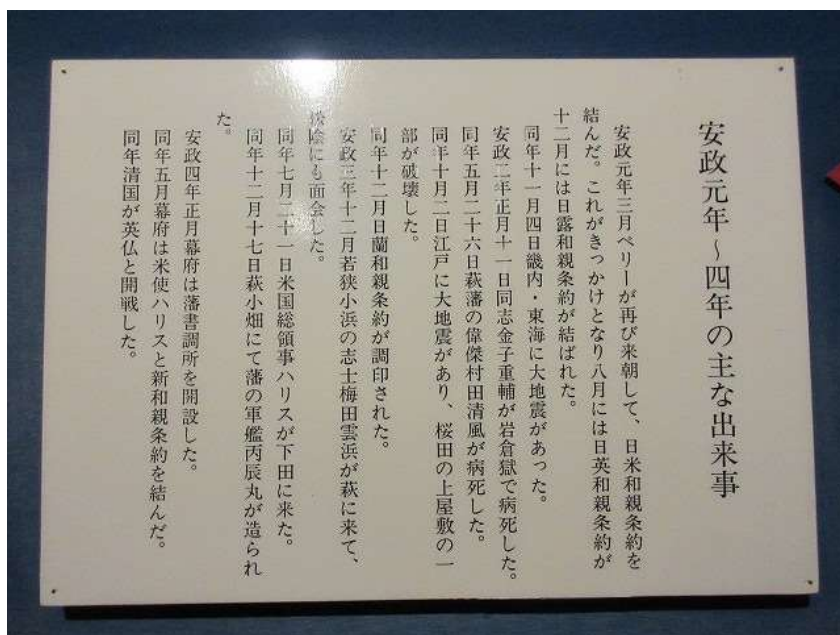


「倒幕以外日本を救う道なし」

安政の大獄の嵐が吹きすさむ中、ついに松陰は江戸 5 層の命令を受けた
死をまぬかれぬと知った松陰はその前夜送別の宴を持った

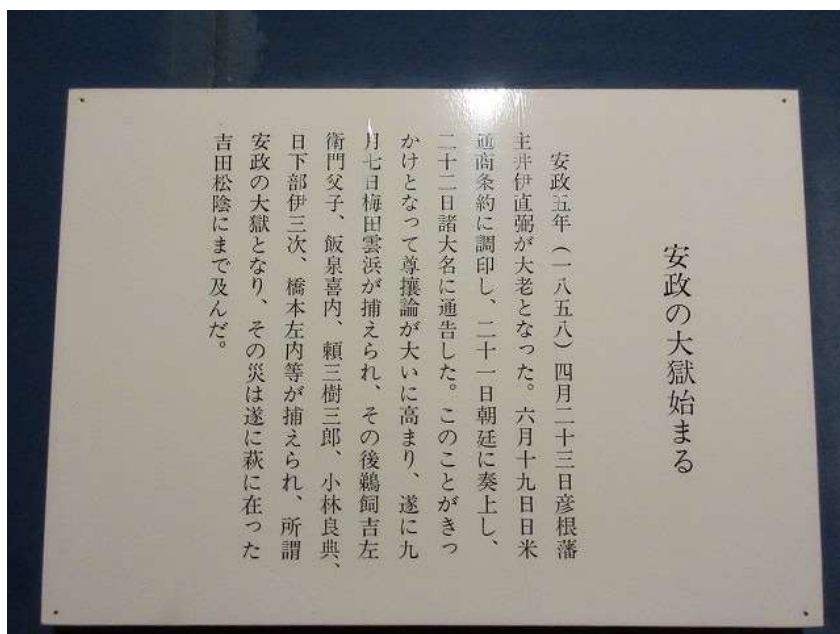


安政元年～4年の主な出来事



安政の大獄始まる

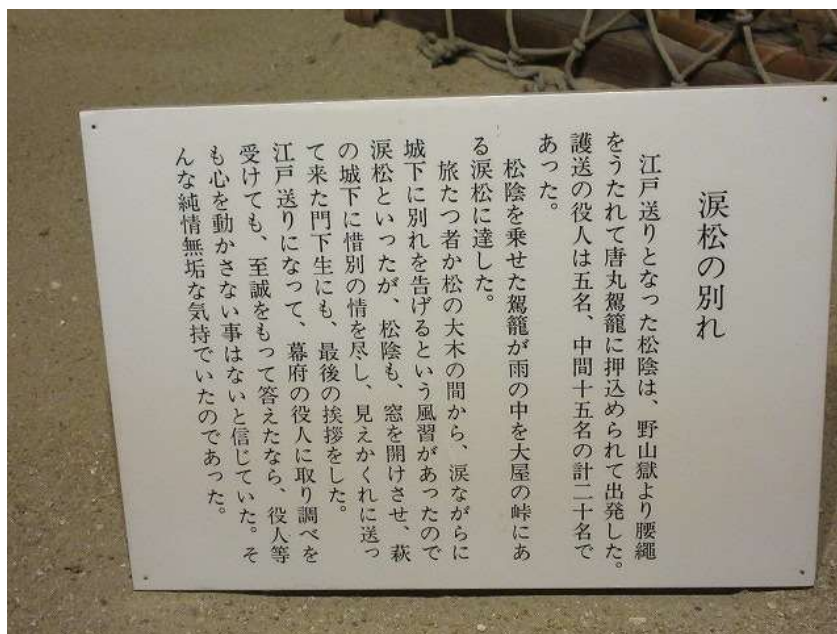
1858年、銚湊榷主「井伊直弼」が大老となり、「日米通商条約」の調印
これがきっかけとなり「尊攘論」が高まった



涙松の別れ



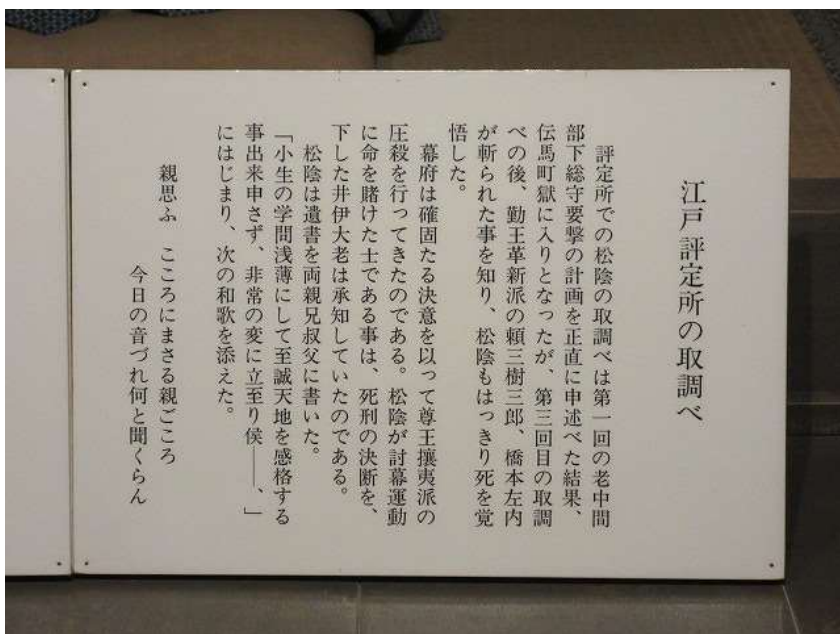
江戸送りになった松陰は、野山獄より腰縄、唐丸籠で出発した
涙ながらに城下に別れを告げた



江戸評定所の取調べ



幕府は断固たる決意をもって「尊王攘夷派」の圧殺を行った
「親思ふ ころにまさる親ごころ 今日の音づれなんと聞くらん」



江戸評定所の取調べ

評定所での松陰の取調べは第一回の老中間部下総守要撃の計画を正直に申述べた結果、伝馬町獄に入りとなったが、第三回目の取調べの後、勤王革新派の頼三樹三郎、橋本左内が斬られた事を知り、松陰もはつきり死を覚悟した。

幕府は確固たる決意を以って尊王攘夷派の圧殺を行ってきたのである。松陰が討幕運動に命を賭けた士である事は、死刑の決断を下した井伊大老は承知していたのである。

松陰は遺書を両親兄叔父に書いた。

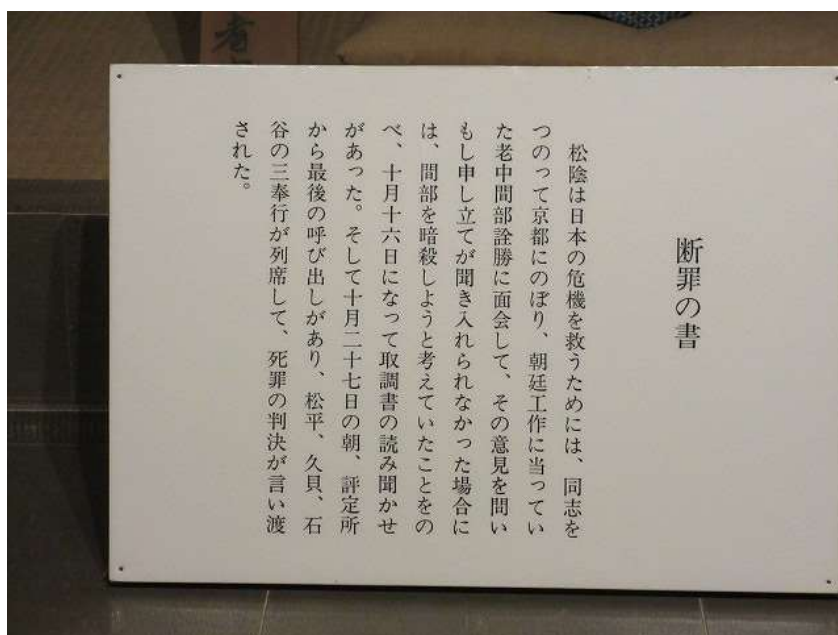
「小生の学問浅薄にして至誠天地を感格する事出来申さず、非常の変に立至り候——」にはじまり、次の和歌を添えた。

親思ふ ころにまさる親ごころ

今日の音づれ何と聞くらん

断罪の書

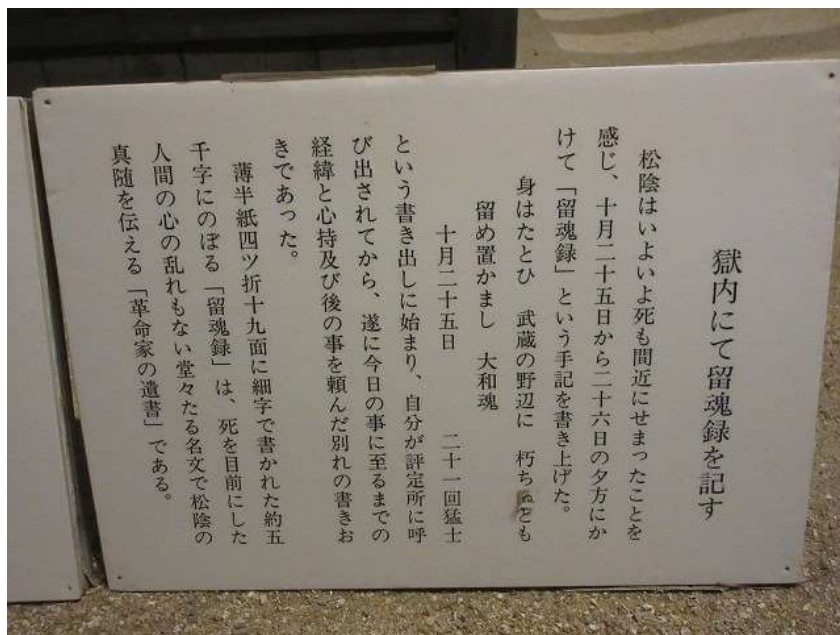
死罪の判決が言い渡された



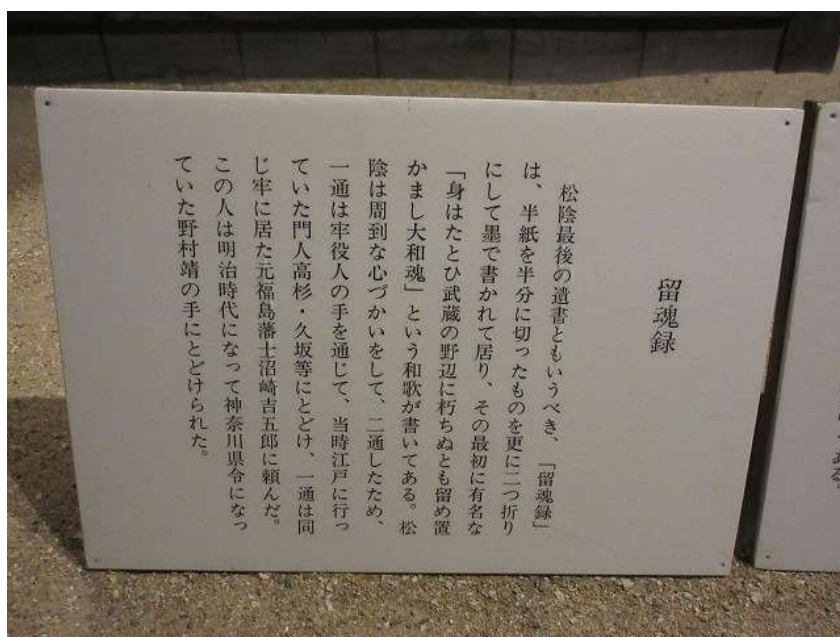
獄内にて留魂録を記す



「革命家の遺言」約5千字



「身はたとい武蔵の野辺に朽ちぬとも 留め置かまし大和魂」

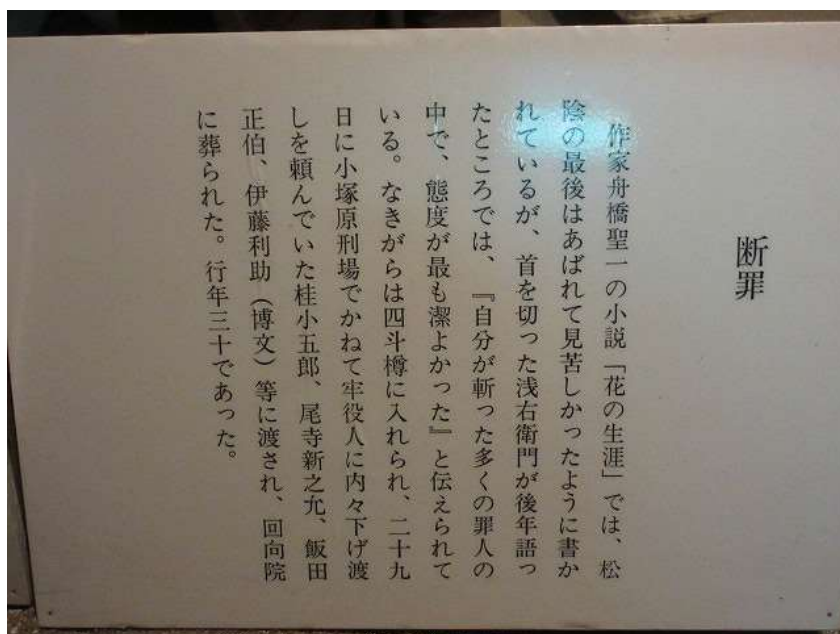


断罪

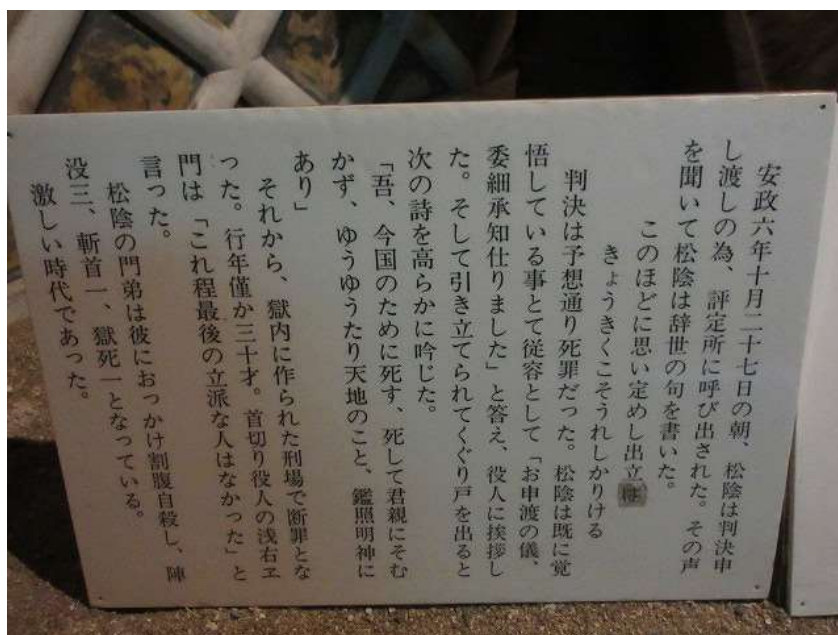


首を切った浅右衛門は

「自分が斬った多くの罪人の中で、態度が一番清かった」と後日語っている
桂小五郎、伊藤利助(博文)等に渡された



桂小五郎(木戸孝允)、伊藤利助(伊藤博文)は、吉田松陰の意志を継ぐ



松陰神社

東京都世田谷区若林

吉田松陰を祀る神社

長女夫婦の長男の七五三のお参りをした場所



吉田松陰像



出口の飾られた写真



長州五傑



吉田松陰の言葉(ネットより)

“

夢なき者に理想なし、
理想なき者に計画なし、
計画なき者に実行なし、
実行なき者に成功なし。
故に、夢なき者に成功なし。

- 吉田松陰 -

松陰神社、伊藤博文邸に向かう

[わが家の年越し料理](#)

2020-12-31 19:37:01

1 年を終えて

令和 2 年は、コロナに始まりコロナに終わった年であった

その中でもいろいろな人にお世話になりました

来年はどうなるか分かりませんが、我が道を進むだけ

できなかったことを悔やむより、できたことに感謝

理屈より行動を優先

来年も宜しく願いいたします



我が家のおせち料理



煮物材料



今年は昆布、椎茸、だしパック、八方だしを準備



だしパック(旬楽膳)、八方だしは「うま味調味料」を使っていないものを選んだ



おからこんにやく(旬楽膳)
これは煮物にしてどうなるか



固い素材から順に煮てゆく



完成 うまくできた

昆布はだしを取ったものを結んだ

おからこんにゃくはまるで肉のよう 味も浸みている



市販のおせち材料

殆どが加工食品



家族二人であるため「一人用おせち」にした

同じものを二つ準備

加工食品をお重に盛り合わせただけだが



これが一人前おせち



今年は地元で食べられている「鯉甘露煮」「貝ひも煮」「鶏チャーシュー」を加えた
「焼き鯛」と「伊勢海老」は今年は使わなかった



お昼に食べた握り寿司



生ネタ寿司

鮮魚売場の寿司なのでシャリが冷えきっている(2°C~3°C)

常温に戻して食べた方がいいな

それかネタや軍艦を外して電子レンジで人肌に加熱



食べ終わってトレーをよく見てみると

お城の天守の遺構のようにも見える 石垣の脇に梅も咲いている 考えすぎ



板かまぼこを見ていると



岡城の「かまぼこ石」を思い出す
キリシタン大名大友宗麟の墓はかまぼこ型であった
キリスト教の影響か



毛利家墓所の階段



萩にはこんな石もあった 禅の影響か

考えすぎか



カニ、エビちらし寿司をつくる
錦糸卵は妻が焼き刻んだ



梅酢(旬楽膳)

かんたん酢 60 ccに少し加える



三年熟成梅酢 かなり酸っぱいがコクがある



煮物材料を刻む



シャリが炊けた

炊飯器の内釜で酢合わせをする

山のように高くして上から合せ酢をかけると、富士山の伏流水のように均等に酢が広がる
その後酢合わせをする



カニ、海老ちらし寿司の出来上がり



生ものは使わず、酢を多めに使っているため日持ちがする
冷えれば、蒸すか電子レンジで加熱もできる



牛しゃぶしゃぶと鳥鍋 鳥鍋セットを送ってくれた 鶏から取ったスープもついている
最初に少しだけ牛肉のしゃぶしゃぶを食べ、鳥鍋に進む予定



鶏もも肉、ムネ肉、松本一本ねぎはすき焼きのように最初に油で炒める



野菜と一緒に煮る



最初にちょっとだけ牛肉を



干し柿と栗きんとん(和菓子)



干し柿の中に栗きんとんを詰めると最高



今年の年越しそばは「ごぼう天そば」の予定
丸亀うどんの「肉うどん」とごぼう天、いなりずし



ごぼう天

これも美味しいが私が食べたいのはこれではない



旬楽膳の青森県産土付きごぼう



太い部分だけごぼうをポイルした
本当は蒸した方がいい



太ごぼうの天ぷら



フライパンで揚げたため出来は悪いがこんなイメージ



年越し生そばは後で追加しました
そばつゆは創味、そばは信越明星



これこれ 今回はそばだが
このごぼう天に出会ったきっかけは、20年ほど前北九州市小倉の「更新うどん」
当時はまだカウンターだけの小さな店であった(今は近くに移転している)

カウンターに座って名物の「ごぼ天うどん」をすすっていると
この大きなごぼう天がおいしくて、おいしくて、感心していた
「ごぼ天がおいしい」というと、おかっぱ頭の店主が丼に箸でもう一本サービスで載せてくれた
聞くとごぼうは青森県産だという
太い部分は天ぷらに、細い部分はかしわ飯にする

学生さんが来ると、丼の様子を見ながらうどんやつゆをサービスで足している
20年経ってもこの店、この「ごぼ天うどん」が忘れられない
その後何回か行ったが、最近に行く機会がなくなってしまった



この太さ
早く食べないと衣が溶けてごぼうだけになってしまう



今年の年末用買物の合計は 27000 円であった
50 品目購入しているため、平均単は 540 円
伝統料理は出来るだけ作り継承して行きた

新年を迎えて

2021-01-01 20:15:29

新年あけまして

おめでとうございます

今年も宜しくお願いいたします

2021年、令和3年の正月

昨年はコロナ禍の影響でステイホームが増え、外食、中食は控えられた

自分も半年間信州の家にとじこもって、食材を買って料理をつくり続けた

おかげであることに気づくことができた

そのキーワードは、「望郷食」(こんな言葉はないが)

「Food Nostalgia」と

「Return to Where we were」

自分が子供の頃に食べていた地元食材を昔ながらの料理法で作った料理

祖母や母がつくってくれた質素で素朴な料理

久しぶりにコンビニやスーパーマーケットの中食を食べると、味が濃く、おいしすぎる

味が濃いというのは糖度や塩度が高いということではなく、味が強すぎるということだ

パンに例えれば、乳製品をたっぷり使った「リッチなパン」と

小麦粉と塩だけの「リーンなパン」の違いで説明できる

コロナはいい機会を与えてくれた

言い換えれば、「身土不二」や「地産地消」であるかもしれない

日本伝統の「精進料理」も今風に進化させなくてははいけない

それがフェイクミートかも知れない



年末に妻が生けた花



もう梅が咲き始めた



新しいお札をいただいた

神棚に参拝



年末につくったおせちと煮しめ



今年は個人の重箱に詰めた
朝食べれるだけの量を重箱から器に移す



私の盛り付け



妻の盛り付け



鯛の昆布× 生の鯛をスライスして、酒で拭いた昆布に挟む
サンドイッチにして冷蔵庫で1日寝かせた



繊維がほどけふっくらねちとした食感 熟成と昆布のうま味でおいしい
昆布塩でいただく



お雑煮

南信州はすまし汁 餅は切り餅 餅は焼いて汁に入れる



煮しめ

おせち料理は味が濃いため、薄味にした 爛酒を飲んで一日まったりとする
爛冷ましは意外においしい



天津甘栗と落花生 天津甘栗の皮が剥きづらい そこで、フライパンで炒る



栗も落花生もむけがよくパリパリになる



富有柿

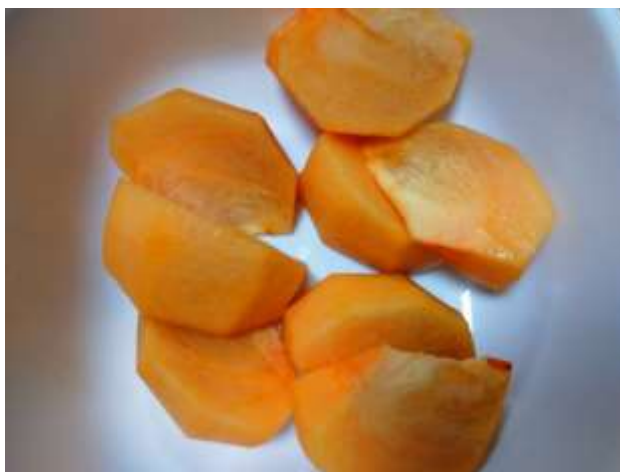
奈良の大手青果加工会社から頂いた柿

奈良益田農園のブランド柿



珍しい食べ方を発見した

先ず皮を剥いてシャキシヤキをいただく



タッパーに詰めて半日置くと、少し乾燥してまったりとしてくる



さらに半日置くと、半乾燥の干し柿のような食感
味は置くほど強くなる



「西郷どん」を読む

著者は「林真理子」 角川文庫

初版発行 令和2年12月25日 刷りたてのほやほや 年始に読もうとして買った



明治維新の研究で、土佐、山口は訪れたが、西郷隆盛の研究はまだしていない
今月、鹿児島に行く予定だ
また特集します



まだ萩の特集の途中ですが、年始なのでしばらくブログはお休み
「明治維新」「明治回天」を学べば今が見えてくるような気がします
今は「令和維新」「令和回天」の時
どう変わって行くのか
勝海舟の言葉
「時代は動いている 理屈は死んでいる」
佐久間象山は、第一人者と言われていた「儒学」を捨て、「洋学」に没頭した

萩「松下村塾」と「伊藤博文邸」

2021-01-13 20:55:14

十牛図(じゅうぎゅうず)

吉田松陰資料館で見た「牛に乗り笛を吹く旅人」の像が気になっていたもので調べてみた
臨濟宗 萬福寺(愛知県豊橋市小浜町 173)より抜粋

<http://www.tees.ne.jp/~houjuzan/jugyuzu.html>

「十牛図」には、一頭の牛が登場します。

牛は普段はおとなしく、物静かでありながら、

あばれると非常に強く、手がつけられなくなります。

その姿はまるで、人間の心の様子に似ています。

自分の牛を探し求める、つまり自分の本当の心を探すところから、物語は始まります。



騎牛帰家(牛に乗って家に帰る) 六番目の絵から

旅人は、見つけた牛(目標)を何とかつかまえ、飼いならしていくうちに、牛と自分がぴったりと、ひとつのものになっていることに気づきました。

絵には、牛の背中で笛を吹いている旅人の姿が描かれています。

手綱もにぎらずに、牛の進むにまかせています。

* 牛の上に乗ることは難しいが、修行いよって牛(自己、心)をコントロールしている状態です
心が穏やかで余裕がある状態です

コロナ禍によって、自分を含め牛が暴れてきているように思います

人を批判するのではなく、「慈愛の心」を保つよう努力したい

こんな時に人間性が露骨に現れるからだ

松陰神社

今回は川を渡った右側の地区のレポートです

島状になっているのが城下

そこ以外は「半農藩士」「農民」「その他」の人々が住んでいた地域

今回はそこを歩いてみる



川の右側の歴史遺産



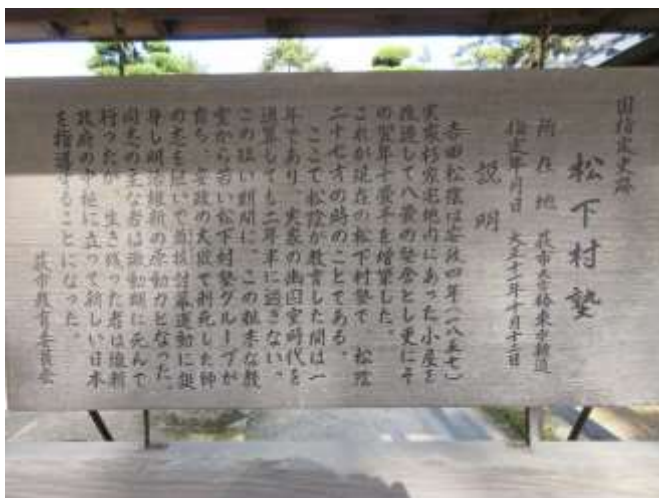
松陰神社 ここでお参り



松下村塾跡



説明版



最初は 8 畳であったが、後に 10 畳半の部屋が増築された



松下村塾で学んだ人々



松陰の掛け軸と像



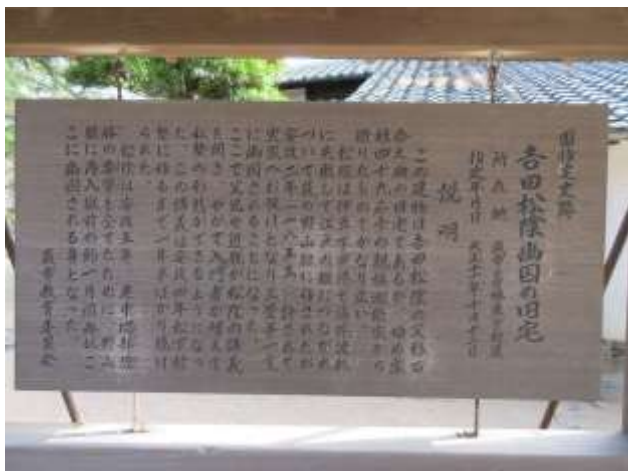
吉田松陰幽因の旧宅



入口



説明版



1855年(安政2年)から数年間ここに幽囚された
三畳半の部屋が幽囚室であった 後に入れられた牢獄は城下の存在した



松陰最後の句

「親思う ころにまさる 親ごころ きょうの音つれ 何ときくらん」



こんな道を歩き、伊藤博文旧宅、別宅に向かう



この案内板の場所を全部訪問した



伊藤博文の陶像

萩らしく陶器で作られた像



少し絵の具が剥がれている



裏に回ると何やら四角いものが
何か埋められているのであろう



伊藤博文旧宅は改装中

伊藤博文は山口県光市(熊毛郡東荷村)の百姓に生まれたが
父が長州藩士の養子に入ったのを機会に一家で萩に移住
14歳から28歳まで茅葺のこの家で育った



別邸

1907年、東京大井村(現品川区)に建てられた別邸の玄関や大広間の一部を移築



玄関の花

ボランティアが飾っている



大広間



廊下は畳が縦に張られているほどの広さ



廊下の天井 2m以上もある節のない一枚板物 あまり見ないところにお金をかけている



わざと節のある板を使った天井

時が経つと節が抜け落ちるため、裏を漆喰で埋めてあるという



廊下の角も凝った造り



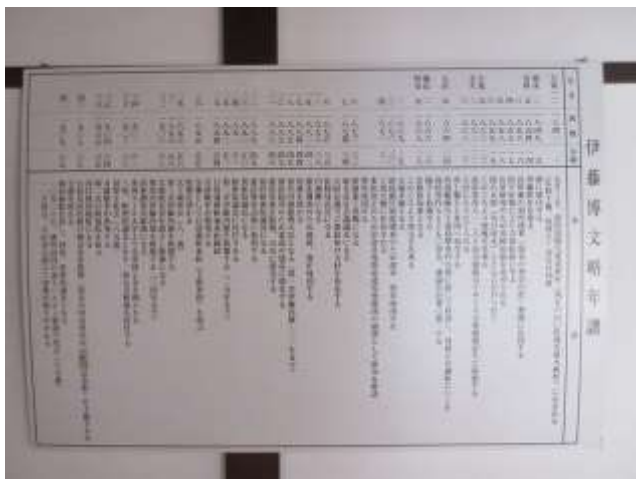
こんな細工も



大きな円卓



年譜



俊輔少年誕生



吉田松陰との出会い



イギリスへ密航留学

英語が話せるということで内閣総理大臣に推薦された



明治政府の要職を歴任



初代内閣総理大臣就任



韓国統監就任

右の子供は李氏朝鮮のラストエンペラー



ハルピンにて暗殺



伊藤家の人々



伊藤博文ゆかりの地



庭の灯籠 何やら模様がついている



右が天皇家の十六花卉

左が政府の桐

変わった細工だが、明治天皇が伊藤博文に贈ったものだという

あまり趣味はよくない



500 円玉の桐のデザイン



庭には千両



南天



万両(高杉晋作邸)



伊藤博文は戊辰戦争には直接参戦していない

後方支援で武器や物資の調達を行っていたというが……………

松陰が学んだ「玉木文之進旧宅」を通り「吉田松陰生誕の地」と「墓所」に向かう

吉田松陰生家と墓地

2021-01-17 17:08:25

伊藤博文別邸を後にし、吉田松陰の生誕地と墓所に向かう

レモンの木



萩焼の窯か



三段釜

手前は台に使うものようだ



中はこうなっている

あまり長居すると怪しまれるので退却



民家の玄関

オシャレだ



玉木文之進旧宅



説明文



玉木文之進(1810年～76年)

吉田松陰の叔父に当たり、杉家から出て玉木家40石を継いだ

学識にも優れ松陰の教育にも影響を与えた 近所の児童を集めて教授し「松下村塾」と名付けた



風呂とトイレ



吉田松陰の墓と生家に向かう



東光寺正門



三代藩主「大和吉就(よしなり)」が、1691年に創建した黄檗宗(おうぼくしゅう)の寺院



吉田松陰墓所

東光寺の右の道を進めばこんなのぼりが見えてくる ここは気になることが多く2回訪問



吉田松陰の墓 高杉晋作の墓 どちらも萩で亡くなっていないが



杉家、吉田家の墓

ボランティアによりしっかり墓守がされている



吉田松陰の墓

ここには松陰の遺髪が収められているという



墓守のボランティアがいたので線香を買ってお参り



大罪人とされた吉田松陰を慕い塾生たちが幕府を恐れず名を刻んだ石



1859年、江戸小伝馬町の獄にて処刑される



建立者名簿

吉田松陰の墓 建立者

新井白石門下生であり、松陰の墓を建てた者として名を刻み、その功を後世に伝える。吉田松陰は幕府から第一級の大罪人とされ、処刑された。その墓を建て、その功を後世に伝える。その功を後世に伝える。その功を後世に伝える。

建立者名	建立年	建立場所	備考
1. 吉田松陰	1859	江戸小伝馬町	松陰の墓を建てた者として名を刻み、その功を後世に伝える。
2. 吉田松陰	1859	江戸小伝馬町	松陰の墓を建てた者として名を刻み、その功を後世に伝える。
3. 吉田松陰	1859	江戸小伝馬町	松陰の墓を建てた者として名を刻み、その功を後世に伝える。
4. 吉田松陰	1859	江戸小伝馬町	松陰の墓を建てた者として名を刻み、その功を後世に伝える。
5. 吉田松陰	1859	江戸小伝馬町	松陰の墓を建てた者として名を刻み、その功を後世に伝える。
6. 吉田松陰	1859	江戸小伝馬町	松陰の墓を建てた者として名を刻み、その功を後世に伝える。
7. 吉田松陰	1859	江戸小伝馬町	松陰の墓を建てた者として名を刻み、その功を後世に伝える。
8. 吉田松陰	1859	江戸小伝馬町	松陰の墓を建てた者として名を刻み、その功を後世に伝える。
9. 吉田松陰	1859	江戸小伝馬町	松陰の墓を建てた者として名を刻み、その功を後世に伝える。
10. 吉田松陰	1859	江戸小伝馬町	松陰の墓を建てた者として名を刻み、その功を後世に伝える。
11. 吉田松陰	1859	江戸小伝馬町	松陰の墓を建てた者として名を刻み、その功を後世に伝える。
12. 吉田松陰	1859	江戸小伝馬町	松陰の墓を建てた者として名を刻み、その功を後世に伝える。
13. 吉田松陰	1859	江戸小伝馬町	松陰の墓を建てた者として名を刻み、その功を後世に伝える。
14. 吉田松陰	1859	江戸小伝馬町	松陰の墓を建てた者として名を刻み、その功を後世に伝える。
15. 吉田松陰	1859	江戸小伝馬町	松陰の墓を建てた者として名を刻み、その功を後世に伝える。
16. 吉田松陰	1859	江戸小伝馬町	松陰の墓を建てた者として名を刻み、その功を後世に伝える。
17. 吉田松陰	1859	江戸小伝馬町	松陰の墓を建てた者として名を刻み、その功を後世に伝える。

吉田庫三



松陰の甥にあたる

鳥取県第一中学校長(現県立鳥取西高校)

神奈川県第二中学校初代校長(現県立小田原高校)

神奈川県立第四中学校初代校長(現県立横須賀高校)

著書に「松陰先生遺言」等

1922年 56歳没

県立横須賀高校は元総理「小泉純一郎」の母校

初代校長の墓がここにあることをボランティアが手紙で伝えると、すぐにここにお参りに来たという
フットワークがいい人だ



高杉晋作の墓

墓地は下関の「東光庵」にあるが、ここには「へその緒」と「遺髪」が埋められているという



割菱(武田菱)



久坂玄瑞と並ぶ松下村塾の双壁

奇兵隊を創設 29歳で没



久坂玄瑞



松陰の妹「文」と結婚

「蛤御門の変」で負傷し自決 25歳



手前は「しきみ」

毒草の一つで、仏事の用いられる植物
さかきに比べて葉が長い



玉木文之進



松下村塾の創設者



ここの墓は荒れ果てていた墓地をボランティアがまとめて移転した
代表者は 40 年以上前にここを訪れ、あまりの酷さに整備を続けていたという

これは「さかき」 神道の神事に用いられる植物
お墓にも供えられている



吉田松陰像



明治維新 100 年を記念して 1968 年に建立された



萩の景色



この地は「団子岩」ともいわれ、吉田松陰が生まれ、幼児期を過ごしたところ



城下は左側



吉田松陰生誕地



山を切り開いた場所



基礎部分が残っている



松陰が産湯に浸かった井戸



生誕の地碑



前の景色

中央に見える山が萩城



道路側には「高杉晋作草庵跡地」



今回は東光寺の毛利家墓所と萩の工業化をレポートします
過去の歴史は大きく変化しないためゆっくり進めます

東光寺

三代藩主毛利吉就(よしなり)が 1691 年に建造した黄檗宗(おうばくしゅう)の寺院
関ヶ原の戦いから 91 年後



東光寺総門



拝館料収受箱

今はこうなっている



東光寺大雄宝殿



説明文



こんな参道を進む



東光寺鐘楼



説明文



四大夫十一烈士の墓



尊王攘夷派 11人が葬られている



「禁門の変」の責任を問われ自刃を命じられた家老の墓
こちらは仏教の墓



さらに灯籠のある参道を進むと



萩藩主毛利家墓所

総面積は約 5200 m² 神道碑 6 基、鳥居 5 基、石灯籠 500 基

墓の周囲には玉垣が 16 カ所

藩主のこんな立派な墓は見たことのない

大きな鳥居が5カ所見える
その奥に石塔が 神道の墓である



神道碑 6基



その下には亀のように見えるが架空の動物が支えている



ここにもかまぼこ型が



藩主と同室

藩主と正室は墓石は同じ大きさ

これは珍しいという



毛利家の裏家紋



一族の墓には毛利家の家紋



藩士が寄贈した約 500 基石塔が整然と並ぶ



誰もが正面からしか見ていない

吉田松陰の墓のボランティアが「高いところから見れば何かに似ている」というので
再訪して高い場所から見る



彼の答えは西安の「兵馬俑」に似ていないかという
時代は全然違うがそうにも見える
中国と貿易を行っていたため、中国の影響を受けているのは確かだ




さらに彼はこの木は中国から来たものだという



名前は「紅唐子」 椿の一種だ
こんな椿は見たことがない



 nae-ya | herbal tree shop...

[Visit](#)

ツバキ（椿）：紅ト伴/
紅唐子 | nae-ya | herba...

種が落ちていた
ひょっとして持ち帰り植えれば芽が出たかも
残念



1600年の関ヶ原の戦いで敗北し、領地を約四分の一に減らされて毛利家だが
91年後にこれだけの墓所を建てる財力があった
後日、安芸郡山城の毛利氏の墓所も訪れたがこれほど立派ではなかった

郡司鑄造所跡

長州藩の鑄造所 幕末には銅製大砲の鑄造を行った



こしき炉を使った鑄造作業想像図



発掘して出て来たもの



幕末、長州藩は郡司を長崎に派遣し洋式砲術を研究させた 1854 年、「佐久間象山」の指導のもとに 18 ポンド砲を鑄造 下関戦争で使われた



当時の鑄造所を再現



鑄型は大砲の形をしている



ドラム缶のようなものから溶けた銅を注ぐ



下関戦争

長州砲は射程距離が短く通用しなかった



郡司家が鑄造した大砲のゆくえ

長州砲は土産に持ち帰られ、パリの廃兵院に展示された



萩反射炉



長州藩が西洋式の鉄製大砲鑄造を目指して築造した金属溶解炉の遺構
高さは 10.5m 煙突部分だけが存在している



説明文



反射炉の構造



反射炉は左右対称で2基



裏側

萩の反射炉は残念ながら成功しなかった



恵美須ヶ鼻造船所跡



幕末期に2隻の様式軍艦を建造した造船所



防波堤のみが存在している



今も発掘調査が行われている



ボランティアが調査してノートに図を書いている



防波堤



上からの景色



反対側の景色 秘密裡に建造していたため人が寄りつけないようになっている



次回は光市、田布施を訪問します

伊藤博文の生家、記念館、朝鮮式山城をレポートします